野津原方言集

続編

9

はじめに

野津原方言集の　続編№９《通算１７》が　ご愛読者皆様がたの　ご支援によりまして　完成いたしました。方言単語もちりばめた前頁にわたる　かっての生活用語の方言。素人集団での１７年かけて取り組んだ　野津原方言集ですが　今回も『味』も加え五助さんの　賑やかな登場に華を添えました。

ここには古くから馴染んだ　食べ物が顔を覗かせ命の糧とした回顧。子供の世界では『読み聞かせ』も　歴史なども入った『宝の玉手箱』も。あげなはなし、こげなはなし　笑いと涙も誘う人生悲喜劇　織り成して皆様にそっと　囁きたいと思います。

『涙が出そう』『面白くて…方言がちっと解らん』など　嬉しい皆様の声に継続を重ねて　続く限り毎年１回を目安に　発行の予定です。※　続編№１０号も平成２０年に　発行の予定にと編集を進めています。まだ拝顔の機会ないままの　皆様に声を聞く事も楽しい刹那　それが励ましにもなっています。

全て手づくりで限定１００冊しか　出来ませんがこれからも皆様がたのご支援、ご愛読をよろしくお願い申し上げます。心より皆様がたのよりよい　お過しご祈念申しています。

平成１９年１０月吉日

野津原方言集　続編№９　《通算１７号》

表紙画……松本英明《上浦町》
題字……姫野順子《野津原》

★　ご協力支援いただいた皆様　★

岡本政雄様《野津原》。三浦一郎《別府》。三浦敏男《野津原》。
寺司勝次郎《南大分》。斎藤キミエ《野津原》。後藤ヨカ《野津原》。
宇留島孔明《野津原》。上浦会。野津原地区公民館。

★　利用させていただいた資料　★

野津原歴史記録会資料
文化財調査こぼればなし
野津原文化協会演劇部資料
野津原読み聞かせ資料
大分なつメロ会資料

★　調査…甲斐英行、小野寿祐、佐藤源治、那須政子、赤星ヨシミ。
監修…小野寿祐、赤星ヨシミ。カット…那須政子。
印刷…甲斐英行、小野寿祐、那須政子、赤星ヨシミ。佐藤源治。
製本…小野寿祐。プリンター…佐藤源治。

平成１９年１０月吉日
野津原方言調査会

野津原方言集　『続編№９』　もくじ

はじめに……１
目次……２
五助の街道物語……４
いっぺん見しい……５
みかけより味がいい……７
方言説明……９
五助も人の子、人の親……１０
方言子供ん世界……１５
お礼にくれた湧水……１６
川まつりがはじまった……１８
方言説明……２１
ちょいと一服……２２
方言カルタ……２３
方言説明……２５
戦中戦後……２６
民話、伝承……２９
伝説－民話……３０
方言説明……３４
玉手箱……３５
一万田尚登……３６
森治平……３８
堀恒夫……３９
高屋光三郎……４０
大塚三雄……４１
長岡一実……４２
野津原能泰……４３
三浦恒男……４４
井路と橋……４５
ふるさとの味……４９
きゅうり酢味噌和え……５０
ウナギカレー……５１
春、夏の接待……５３
五助んあげなこげな話……５４
風物詩……５７
方言子供ん世界……６３
眉毛ん殿様……６４
人の言うこた聞くもん６６
五助さんの京みやげ……６９
方言説明……７１
女の底力……７４
餅を欲しがる子供……７５
歩く日近くなって……７７
命をかけた水番……８０
民話伝承……８３
野津原ん民話伝承……８４
竜の恩返し……８５
免税に救われた人たち８７
お膳箱……８９
自然に覚ゆる感謝の……９１
こきーあったんと……９３
方言のひろがり……９４
伝言板……９９

方言と数字

1　イッパイ…満つる。イチゴモネェ…たいしたものじゃ。イチシモゥタ…行ってしまった。イチリンダマ…大きな飴玉１里はある。１チョウヤルカ…準備はよいか。

2　ニガオレタ…終わって落ち着いた。ニイッタ…眠った。フタツヘンジ…すぐ返事する。ニヘントイワンド…何べんも言わせない。ニシメチョケ…煮味をつけなさい。

3　サンバイズ…酢、塩、砂糖の混合味。サンベンマジド…何べんも言わせない事。ミツグミ…少女の３つに編んだ髪。サンワキ…出産後。サンドビユゥ…三食付きの手間がい。

4　ヨツバイ…腹ばい。シノゴノ…文句が多い。シカハナ…葬儀の時の紙の花。シンダガマシ…死ねない人の捨て台詞。シホンバシラ…どれが欠けても困るバランス。

5　ゴトク…沸かす、煮る、ゆでる、焼く、爛をする。ゴ…にがり。ゴーズリ…籾すりの歩留まり。ゴサンピン…白和、酢物、吸い物、きんぴら、煮付け。ゴケアワセ…違うもので合わせる。

6　ロクモンセン…三途の船賃。ロクスッポ…あてにならない。ムトウナ…無理を強引に。ロクデナシ…嫌われ者。ロクシャクボウ…昔の標準担ぎ棒。

7　ヒチムズカシイ…予想以上に難しい。ヒチナンカクス…得する美人。ヒチクジィ…粘ねばと。七瀬七谷…起伏の激しい地形。ナナフシギ…どこにもある解らない事。

8　ハッテイ…物乞いする人。バチアタリ…悪い報いが。ハッチョギネ…ちょしのいい音。ハチガマワル…順番が来る。ハチカケ…畳２枚位の掲示板。

9　クリハサンネン…３年は辛抱。クワラクンハジメ…働く事がやがては。クワバラシワバラ…雷よけの御呪い。クマイヲジュウマイニツカエ…知恵はいる時使え。クウチョキャサカシイ…口からのものが健康の元。

五助の街道物語

いっぺん見しい

『どげーか　もういつぺんぐれー見せてんいいじゃねぇ』『ちゃ又そん話な　恥ずかしいきやめちょこう』『よっぽずいいんじゃろうのう』。

嫁に来た頃かるエエラシイ娘じゃき　何か気に魅かれち心易ぅはなっちょつたけんど　いっぺん見てーんがあるぬ　聞いたもんじゃき　見せたがらんと　尚更見とうなるんが　人間の常でんある。よっぽずいい品もんか　変わっちょるんか　あれこれ思い浮かぶると　もうたまらんごつ見とうなる。

そう言うたもんの他所ん嫁ごになると　そう勝手気ままに見るにゃ度胸もいる。育ちがいいとか　けっくしゃ遊びよったとか　何でん知っちょるとん聞いたき　頭ん中じそん答えが　なかなか出ちこんじ　今日は暇じゃつたき　つい口に出ちしもぅた。言わるるしもセツかろうが　聞くしも早ぅ見てーぬコラユンモ　ヤエコチャネーエモンジャ。

色はまこち白いし適当な太り具合は若者にゃ　とてん捨ておかん体格。そりー見せたがらんとなりゃ　いろいろ憶測も先走っち　ひよぃとすりゃ　よっぽず大けなもんか　反対にコンモ過ぐるんか。姿体かる考えちタシち２じ割ると　けっくしゃ大物んごともある。溺るりゃしめーかとか　なかなか抜けんごつなっち　引っ張っちもろうち出えたち聞いた話もある。

あんまり合うたんび言うもんじゃき　本当に見てーんか知れんち思うと　ムゲノーモアル。あげーまじ言うんならいつぺんぐれー見しゅうか。そげな気持ちにもなるが　やっぱ笑わるるかん知れんち　そこが若えきツイ引き込み癖が出る。『誰でんかりでん見せなんな』　嫁入りん前ん晩に母じょうかる　こんこんと言われちょる嫁でんある。ジャキナオサラ見せられもせん。

『おいさん　おんのー』『や　おいさんちゃ　俺んことか』　ダマシ来ち言うもんじゃき　タマガッチシモウタ。『おいさんじゃ悪いんな』『じゃのう　兄ちゃんぐれーは　言うちもらいてーのー』『兄ちゃんえ』　嫁がおかしかったんか　大声じ笑うち失礼ち思うたんか　『ごめん　コラエナーナ』『コラエンド』　二人は大声じ笑うた。

『こん前かる言いよった事　今日は誰もおらんき　見せてんいいけんど』『や　そりゃ本当か』　あんまりダマシ言うもんじゃき　タマガッチシモウタ。長い間待ちに待った　あれが見らるるち思うと　顔が真っ赤になるんが　はっきり解った。それだけ待ち望んじょつたんかん知れん。

『あんまり大声じゆうな　ほんな今かる行ってんいいか』『すぐ帰っちシコースルキ　ちっとしち来て　ナルタケ見られんごつ』『そうな　ほんなあとじな』　イサギュ素直になったもんじゃち若い嫁も思ったんじゃろうが　あんまり他んしに見らるるんも　いゃじきいつもん顔じ　さつと引き返した。

『あがってんいいんか』『ありゃオトロシ早ぇなー　まあ着替えもせんままで』『いいとん』　はやる気持ちをえーと押さえち　奥座敷に入ったら着替えかち思うたら　押し入れかる抱えだしよる。豆鉄砲くろうたごたる目じ見つむると　『嫁入りん時　何かん事じ困ったら売ればいい』ち　親か持たせちくれた人形を開いて見せた。

そこにゃさすが目を見張るごたる　上等ん雛人形かるコケシ人形まじが　きちんと詰められちょつた。上品に正座した嫁ごは真顔じ『おいさんな　いろいろ思うちょつたんじゃろうが　優しいしち今解ったで。これからも味方なってな』　そこまじ言うと深深と頭をさげて　お辞儀した。育ちのよい娘に恥じ入るごたる　自分の空想じゃつたが　なんか晴れ晴れした気分になった。

みかけより味がいい

『そげー味がいいんなら　いっぺん食べてぇもんじゃが』　陰口じ褒めよるき　聞いただけでん口水が垂るるごたる。昔かるゆぅ言いいよった　漬け物んが旨ぇなぁ　あっこも格別ん味がするち。心ん中じゃもう考え方が　邪まん方向に走っち　それがもう広がるもんじゃき　若ぇしは思わんそこらへんが　元気ぅ出しでーた。

井路普請の苦役が春先にゃ回っちくる。貧なもんの入湯たぁゆぅつけたもん。適当に働いてんチッタ遅れてん　あんまり文句も言われんじすむ。時にゃ年寄りんしが気を利かせち　饅頭をおごっちくるる。そんかわり若いしが　こんめー徳利にドブ酒を入れち　こそっとそん年寄りしに出すと　『お前どうは若ぇにふんと　ゆう働くのー　今日は切り上ぎするかのぅ』

★　予定より早くすんだき
終わりにすること。

『もういいんな　ちっと早ぇけんど』『いいじゃねーか明日ち言う手をかけん日がある　家に帰るんが悪かりゃ　別品かてー遊び行け。そんかわりほどほどにゃ帰れや』　粋なはからいじゃき若いしも　束ん間ん息抜きをする。そんかわり次ん日はハリコム。

春先にゃ話題も多いもんじゃき　嫁ご話も飛び出す。あっこん娘もぼちぼちいいのや　早ぅ手を打たにゃトビに浚らわるるど。誰からとんのう話がひろがっち　漬け物んの話になったもんじゃき　皆側耳たてち聞きよる。『ふんとうや　いっぺんよばれてーのや』思いは考えは皆同じんごたる井路ばた。

一人が帰り道じ若い娘に話しかけた。『お前かたんなどげな味がするんか』『知らんで　暇ん時に食べに来ち見りゃいい』『いいんか』『ちゃーいいがえ』『こいさでん　いいんか』『こいさえ　こいさはダンゴ汁かん知れんで』『ダンゴ汁なら悪いんか』『そりゃそうじゃがえ　オサイはいらんこと』

百姓ん夕飯は『ダンゴ汁』が定番。正月と死に事ん時にゃ米飯が食わるる…悲しくもある喜びでんある。じゃき夕飯は簡単じゃが それだけ米が残る食い延ばしの策。じゃけんど栄養価値もあっち 消化もいいき食い慣れた習慣は　そげー抵抗もなかったごたる。それが自然の姿であっち　日ごろん辛抱節約が家の栄えに繋がる。

『オサイはいらんか　こりゃいい考えじゃのう』『感心したなそりー茶碗も洗うのが早ぇきすぐ片ずく』『茶おけはいつ食うんか』『そりゃ夜なべん時かなぁ』『夜なべ　そげー毎晩するんか』『そうで　フセしたり繕うたり』『やんども針をつまむんか』『つまむで　つまむなー上手で』　つまむなー上手　そん言葉は妙に刺激になった。

『漬け物んがうめーな　あっこも旨えち言うのや』『言うごたるなあ』『それも知っちょるんか』『知っちょるで　じゃけんどそげな事ぁ関係ねーで』『そうか　ほんな　お前がんなどげーか』『ちゃーらふんと　そげんこたー解らんがえ』『ほんな味見してんいいか』『何おえ　漬け物んな』

誘いに乗らない娘にいら立ったが　ここが辛抱の時とばかりに『そん漬け物んが食べてーのぅ』『しかとしもねぇふんと』『……』　あんまりん答えにがっかりしちしもうた。『今漬けちょるんがすぐ食べ頃になるき　そん時来ればいい』『そうか　ほんな食えるるの』『自分じちゃんと食べち見りゃ解るわな』

あれこれ空想したもんの結局は　食べて見てこそ確認も出来るき食べ頃を　待つことにした。それにしてん食べ頃ん味は　どげなんか。娘の柔肌に包まれた真心は　温もりの中でどんな味が楽しめるのか。押しの効いた重石に熟成した　その二つとない妙味はこの娘の優しい　情愛のようなのかも知れない。若い二人の巡り合わせは案外早く　そして味を楽しむのも近い。

方言説明……どげーか☞どうですか。ぐれぇ☞くらい。じゃねぇ☞ではないですよ。ちゃ☞あらまぁ。よっぽず☞よほどの。じゃろう☞でしょう。エエラシイ☞可愛いいこと。じゃき☞ですから。なっちょつた☞なっていました。けんど☞そうですが。あるぬ☞あるものを。見せたがらんと☞見せるのを嫌うものですから。よっぽず☞よほどの。たまらんごつ☞我慢できないほど。

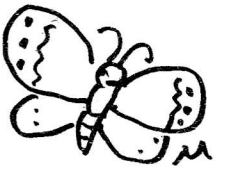
けっくしゃ☞思った以上に、とても。こんじ☞こなくて。来ないよう。じゃつたき☞ですから。セツカロウが☞悔しい悲しいだろうが。コラユンモ☞我慢するのも。ヤエコチャネェ☞大変なことです、苦労します。なりゃ☞でくれば。ひょいとすりゃ☞もしかすれば、まかり間違えば。コンモ☞小さく。ムゲノーモ☞可愛いそうにも。あげーまじ☞あんなふうまで、あそこまで。見しゅうか☞見せましょうか。見せなんな☞見せないほうが。

ダマシ☞急に。たまがっち☞吃驚して。こらえなーえ☞ご免な。こらえんど☞断りを聞かないから。許さないから。おらんき☞居ませんよ。ほんな☞それならば。しこーするき☞準備をしますから。なるたけ☞出来るだけ。いさぎゅ☞あっさりと、急に。ありゃおとろし☞吃驚する程に。いいとん☞いいですよ。なってな☞承知して解って。

そげー☞そんなに。そこらへんが☞そのへん、その周りが。ゆうつけたもん☞よくもまあつけたもの。ちった☞すこしは。こんめぇ☞ちいさい。こそっと☞静かに、気づかれぬように。ふんと☞本当に。いいじゃねえか☞よいではありませんか。手をかけん日が☞使ってない日、余分にある時間。別品かて☞若い娘の側に。はりこむ☞頑張って働く精だす。とんびにさらわるる☞他の人に奪われる。ふんとうや☞そうですか。よばれてぇ☞ありつきたい。どげな味か☞さぞ美味しいだろう。いいかえ☞よいですか。

こいさでん☞今晩でも。ダンゴ汁☞小麦粉の練り上げたダンゴを延ばして　裂いてゆがくが煎子だしに　取り合わせの野菜を入れた　味噌仕上げの副食で農家では　主食の役割も果たしている。おさい☞副食。じゃき☞ですから。そげー☞そんなに。お茶おけ☞お茶のともにする菓子や漬け物。ふせしたり☞衣服の補修繕い。やんども☞お前も、あなたもを下品に発言する。つまむ☞手先で動作する仕種。しかとしもねえ☞たいした事でもない。ふんと☞ほんとに。

５Ｐ⇨８Ｐまでに出た方言の説明。



『五助も人の子人の親』

五助さんが阿蘇かるん帰り道　陽がとっぷり暮れてしもうた。いつもなら通り慣れた道じゃけんど　久しぶりんこん道じゃ夜になりゃ　かつても違うちしまう。そりー朝早だちじゃつたき馬もダツタごたる。時々はがいいんか道端ん草ぅ　シカトシモネェ食い方ぅしち首ぅ振り回す。解っちゃおるんじゃが　五助さんにしてんもうテエゲーニャダッチ　仕方のう歩くごたる足取り。

馬は夜道でん目が効くが　人間なサッパリじ日ごらぁ大けな事ぅ言う　五助さんでんもうクタビレ果てちょつた。そん時じゃつた峠ん片脇ぃ灯が一つ　チラチラ揺れ動いち見えでーた。『あっ灯が見ゆる』　もうだりがいっぺんに出たごたるぬ　えーとこらえち足がちょいとシャントなった。馬が気づいたんか『ヒヒンー』　一声嘶くとやっぱ人里恋しいんか　それが当たり前でんある。

あと１町ぐれーん所まじくると　はじめに見えたなー湯殿んごたる。ローソクがゆらゆらち　誘い込まるるごたる灯に『よかった馬もヨコワセテェ』　ち　心ん中じ言い聞かせ足取りも軽うなった。あんまり大けな家じゃねえが　母屋も見えでーち　ヒョイトスリャこいさん宿も……

馬が立ち止まった。『どげーしたんか』　五助さんな不思議な心ん騒ぎに身の毛がよだった。『まさか　化け物』　こげな時は煙草を飲むといいち聞いた事がある。セワシュ腰かる煙草入れを　引きにーじ煙管をくわゆると　煙草ぅ詰めくうだ。手元はガタテガタ震えちょる。

風が生温いのん気になる　ゆらゆらしよった湯殿ん灯が　ちっと動いた。『誰か来たんかな　お父たんが帰ったんかな』　どうやら湯殿にゃ若い娘が入っちょるごたる。化け物でんなんでんねぇち解ると五助さんも　いっぺんに悪夢かる放されたごたる気分。『俺は何ぅ考えちょつたんじゃろうか』　当たりが止まったもんじゃき湯殿ん　娘も何事もなかったごつ　それでん長湯はどうやら　ヌリーんジャロウゴタル。

『チットぬりーけんど……』　側まじ来た五助さんの耳にそん声が響いた。『あのもし』　思い切って声をかけた五助さん。山奥じイノチキしよる娘にゃ素朴じ悪ずれ　しちょらんのか　『あら誰かおるんな』『こりゃ　タマガラカシチすまんなあ　馬子ん五助ち言います　遅ぅなっちしもぅち　たまたま通りかかっち　邪魔しちしもうち悪かったなぁ』　『そげんこたーねーで』　『湯がぬりーんじゃねーんな　風邪ひくで』『おおきに　ちっとぬりーき困っちょったけんど』　『ふんなら遠慮しなんな　ちっと指しくべちゃりましょう』　五助さんな馬を草んある畑んくろに　繋ぐとクドん傍ん薪もんぬ小よせちセリクベタ。

白い肌に細長いローソクん光が　映し出されちょる湯殿。五助さんも巡り合わせたぁ言うたもんの娘の　湯沸かしん加勢するなんか　これも人間の宿命でんあったんか。『燃えあがったきユルットしなぁ　心配せんでんいいき』　『おおきに　済みません』「今日は泊まり込みじトッタンもおらんが』　娘は人間の真心が感知出来るんか　五助さんの優しさに隠すことのう　話しかけた。

『おおきに　おかんがゆうなったき　もう出ます　よかりゃ入りませんか』　娘は臆することものーじ　五助さんに勧めた。人を信じ人から信じられる事の　難しい時にこのうら若い娘が五助さんを信じた　その真心はどこから育っているのか。五助さんも折角勧めてくれる気持ちに　快く甘えて入らせてもらう事に。

馬は腹がおけたんか立ったまま仮眠しちょるごたる。湯から出た娘も上がらないと言い張る　五助さんに無理強いして　囲炉裏り端にひだまずいて上がった。心くばりのお茶と煮直した雑炊に　空腹を満たすと深深とお礼を言い　感謝の気持ちをもろに示した。

娘の母親ははやり病で早く死去　商売で出かけた父親と２人暮らしじゃが　不思議と今まで危険な目に合うことは　なかったち言う。父親の人に対する真心がそんな　報いとなっていると娘は自慢しちょるのん。そうかん知れん娘の立ち振る舞いはどう見てん普通ん人間たー違うごたる　高貴さがまぶしゅう輝やいちょる。五助さんじゃつて普通ん男じゃき　年はとったち言うでん時にゃ　邪まに走る天性も持ち合わせちょる。じゃがこん娘ん前に出ると不思議と　そん邪心は払われちそれが　ごく自然でんあるきまた不思議でんある。

『私しゃここじちょいとよこわせちもらう　あんたはもうお休みしちょくれ』　『そげん心配はいりませんで　どうか気の済むごつ休んでください。お風呂まじ炊いてもらったご恩　有り難うございました』　『……　いえ　ただそれだけ　させてもらったまでん事　それにしてん　あんたは不思議なお人　神様いや仏様かな』『あらまぁ　そげな　こげな山奥ん娘です』

囲炉裏ん灯に浮かび上がった姿　なんか夢ん世界に招かれたような　嬉しく楽しく幸せん心ん喜び。ありがてー事です。

どんくれーたったんか　ヒョイト気がちーたら峠ん側ん　夜明けは早ぇきもう陽が肩ごし照りつけよる。じっと目を開くると馬は餌がほしいんか　そこらじゅうん草をヨッポゾカタ　食うち物足らんのじゃろう　捜し回るけんど繋がれた手綱が　そりゅう止めちょる。恨めしそうな目じ覗きくうじ　『テーゲにゃイノーエ』

そう言ゃあ　夜中ぇここまじ来ると　湯殿ん娘が　ぬるま湯じ困っちょつたごたるき　火をさしくべちやった。湯にも入り雑炊もよばれ　囲炉裏ん傍じツルット眠った。いい夢も人間の生きざまもだっちしもうちウスラウスラ覚えちょる。父親は帰っちきたんじゃろうか　まこち不思議な一晩じゃつた。

あたりゅう見回したら馬はたしか　繋いで所ぃ繋いだままじゃがあん　娘が入った湯殿も　追い焚きしちゃつた場所も　母屋も娘もマルキリッかき消すごつ　何も残っちゃおらんじ　朝日に照らされた自然がそよ風に揺れよる。五助さんな丸太を枕に寝ちょつたごたる。体も荷物も何一つ無ぅなったもんも　増えたもんもねえ。

あん優しゅうじ笑顔じ話しかけ　オズガリモセンジ　親しみぅ抱いちょつた娘は　掛け合いの話は誰としたんか。よばれた雑炊は何じゃつたんか　不思議が不思議を生んだ一晩の出来事。えーと我にかえっち立ち上がった五助さん　あっちこっち見回し撫でまわしたが　何一つ変わった事もねえごたる。

そりーあんくれーダツチョツタに　今朝は生まれ変わったごつサカシイナなしか　オケノんこん元気は爽やか過ぐるごたる気持ち。やっぱ神様か仏様が護っちくれたんか　日ごろかる神仏に手をあわせ　お賽銭こすあげんけんど参る気持ちに　ヤッパムゲネーチ助けちくれたんじゃろうか。ひょっとすりゃ『ご褒美じゃつたんかん』　勝手にそう思い変えた五助さん。馬は『早ぅイノーエ』チ見ちょるごたる。

ヒモジイん道草食いじコラエち　小無田まじ戻っち来た五助さんな　頭ん中じ浮かぶヤゼンの情景。あん優しい娘ん心くばり　そしち朝にゃかき消すごつパッと消えた宿。どん一つも不思議な巡り合わせに　タマガルヤラ嬉しいやら生まれち　初めちん出来事ち人間の宿命も　チョコット垣間見るごたる。

飯食いに立ち寄った店ん奥じ　ちょこっと話ぅしちしもうたら肥後に行くしに添い話が花ぅ咲かせた。こんしもなんべんかそげな目におうち　年寄りしに聞いたら『そげなご利益ん話はアンマリせんほうがいい』ち　言われち今まじ黙っちょつた。が確かにそん事は自分も出会うたんと同じち言う。

あん峠は見通しもいいが南向きん　大けな岩山はやっぱ神か仏かん　ござる場所でんあるんじゃろう。困った旅んしゅう助けちゃるなあ　あってんおかしゅうわねえはず。それも日頃かる皆にゆうしちょりゃこす。『あんたも今まじゆうしち来た　そんご褒美じゃねえ』　まじまじと見られち　そげー言わるるとそうかん知れん。ち五助さんも自分の気持ちを素直に認めた。

あん時ヒョウナ考えじ娘を　そげな事ぅ思うと『人間の決まりやら生き方やら』は　まあきちんと護っちょりゃ　こげな助かる場面にも巡り会い　思わん一晩が楽しい思い出も残しちくれた。それにしてん『そん娘は色白ん美しい器量よしじゃつたがなあ』　口水が垂るるごたる言い回しに　茶店ん親父も包丁持つたまま　合槌ぅ打つなぁ商売繁盛ん福の神が　舞い込んだち思うたんかん知れん。

『今日ん飯代はお接待にするで』　笑顔じそげー言うと土産に包んだんか　竹ん皮に饅頭が行儀ゆう並ぅじ　『こりゃわしの気持ち』ち　ついたした。天気がいいしそよ風が　皆ん顔に気持ちゆう爽やか。これが『日ごろ往生ち言うんか』

多侯公造殷

『お礼にくれた湧水』

地下ん湧水ぁ夏冷とうじ冬は暖こぇ　いつも決まった温度じ助かる。そん水じかるおおかたん人間な　長ぇ間に命と　しあわしゅ守っち来た。山んいただきゅう分けた　七瀬川にゃよきい流るるが　大野側にゃ流るるな少ねぇち聞いたが　そげん故郷ん夢とロマンの伝説が　咲いちょつた。

夕暮れと一緒に　しぐれ混じりん風が北かる　吹上げち今日も暗ぅなりかけちょる。灯のついた家ん中も　寒さじひっそりしちょつた。そん軒先ぃ年老いた物乞いの　老人が一椀を求めちたっちょつた。そん日の暮らしにも　ヒンシャん貧しい家庭じゃ　一握ぎしん麦も渡せれんが　宛にしち立つ年寄りにゃムゲネコサレ　無言に頭ぅさげち渡した。

これ以上はとてん無理な話ち思うと　哀れでんあるぬ自分もこらえにゃならん辛さ。精一杯ん気持ちゅ示したんじゃつた。

半分すり切れたワラジん紐が食い入った　足は冷え切って年老いたそん人にゃ　無情にこたえたに違いねえ。でん人ん事どころじゃねえ　ち思うとそっと黙っち戸を閉めた。とっぷり暮れた外れん家ん戸口に立った　老人は鈴を鳴らしち　ここでん物乞いをした。

破れ障子ん隙間かる灯に写し出された　奥ん床にちーた夫婦が寝ちょつた。こん家ん娘は『寒いでしょう　中にお入りください』　優しく声をかけち赤赤と燃ゆる　クドん前に招き入れた。時雨と風の冷たさに比べて　なんとこの娘の心ん暖かい事か。そりゃー燃えちょる火の為　だけじゃねえごたる。

火にかざした皺ん手　冷え切った足先にポトリ涙んヒトシズクが　濡らしち人ん心まじ潤わせた。『もう暗ぅなっちょるきせめて　何もできませんが　疲れを癒してください。

娘はそう言うち　両親の方を見ると　枕かる頭ぅあげた父親も頷じいた。『勿体ない事ですが　お言葉に甘えち　一夜だけ』そん品位ある仕種は　並みん人じゃねえごたるに　親にゃ感じられた。北風がぴゅーと戸を揺らし　障子に無情ん音を立てた。

暖かぇ夜明けん陽ざし旅立つ年寄りに　『お弁当ん準備も出来んじ　申しわけもねえ事ですが』　娘はアツ灰じ焼いたトイモを竹ん皮に包み　差し出すと老人は押し頂い　『せめて　お礼に何か困っている事があれば　お聞かせしてほしい』と　合掌した。『こ地方は水がのうじ　貧しい事じ難渋しちょります　こりゃ甘えかん知れんが　せめて水があればなあ』

両親のそん言葉にじっと目を閉じた老人　少し動かなくなってしまったち思うたら　やおらしちかる言うた。『この谷の向こうに水が湧くので　飲んで元気をだしてください。その水は作もできるでしょう』　峠の方に消えた老人の　チョウシンカワとん言うごる話に娘は　向こうの谷に出かけて見た。

と　その時じゃつた。枯れ草の間かる朝日にキラキラ光っち水が湧いて出よる。そしち水たまりも出来ちょる。カンカラん葉じすくぅち飲むと　口にどんくれ冷とうじウメーコト。竹筒に汲んじ帰るなり両親に飲ませた娘。体じゅうに染み渡る活気に　親が元気さを取り戻したごたる。

娘ん優しい気持ちが心が通じたんか　それが神か仏じやつたんか。老人に化身しち人間の親切に　ご褒美ち恵んじくれたんか。湧水をトイじ家まじ引くと　コンコンと湧き出るき使うにゃ　勿体ねー以上に作物も潤しちくれた。やんがち田の水にも利用出来ち　ほしかった米も作ったち言う。今も言い伝えは夢んごたる話じゃが　水に恵まれる大事なご褒美は人間の　真心が実った話でんあるんじゃなかろうか。

★　方言の説明　冷とうじ…冷たくて。水じかる…水ですから。
おおかたん…だいたいの。よきい…なおさら。
そげん…そんな。小ねぇ…少ない。かけちょる…かけている。
たっちょつた…たっていた。ヒンシャ…貧しい家、人。渡せ
れんが…渡せないけれど。ムゲノコサレ…可哀相な、気の毒。
とてん…とても。じゃつた…でした。ここでん…ここでも。
クドん…竈の。そりゃー…それは。ちょる…ている。

トイモ…甘藷。のうじ…なくて。チョウシンカワトン…調子
よくて。じゃつた…でした。そしち…それから。カンカラ…
サンキライ。ウメーコト…美味しい事。たんか…であったの。
やんがち…やがて。

……

川まつりがはじまった

暑い頃ん川遊びゃ大人でん楽しいが　それが子供じゃあぶね事も　とっと忘れちしもうち夢中になっち　しまうんが当たりまえかん知れん。今日は８月１０日じ昔かる　『川ん神様ん休みん日』じゃつたき　絶対に川に入っちゃ悪いこちー　なっちょつた。皆んなもそりゅー大事に守っちょつた。そん頃ぁ田んぼにある水も多ゅうじ　川ん水もいつもよりゃ多かった。

吉ちゃんな病気んお母さんがん看病と　道を通るしが履くわらじゅ作り　そりゅ売っち『イノチキュ』しよった。こん日も朝早ぅかる　わらじゅ作っちダッタキ　一休みしゅうかち思いよった。そん時じゃつた　奥かる　お母さんが『吉ちゃんお願いがあるんじゃが』ち　細い声じ吉ちゃんにいいました。『何な　なんでん言ぅて　遠慮なんかいらんで』　笑いながらそげー言うち奥を　ひょいと見ました。お母さんは気の毒そうに……

そげー言わるりゃすまんち　思うたけんど熱が　お母さんなあるもんじゃき喉が乾くし　どうしてんあん塩水が飲みたかったんです。笑顔じお母さんの言うぬ　待っちょつた吉ちゃん。『あん塩水が飲みてえけんど　いいかなぁ』『何なそげなことじゃつたんな　いいで　すぐ行っちくるき』

吉ちゃんな　わらじ作りん仕事を片ずくると　トックリぅ袋に入れち肩にかくると　『行ってくるで』と　出かけました。外は暑い日じ太陽が眩しい　川まじ来た吉ちゃんは水がふゆると　流れるるき板橋は引き上げちある。でん浅い所は瀬を渡りゃ子供でん渡るる。神様ん決まりもちょこっと　忘れち吉ちゃんな川に入りました。

ジャブジャブ川に入ると暑いもんじゃき　冷とうじ気持ちがいい。生きかえるごたる。瀬を渡り始めた吉ちゃんは　水の中じ心配するおかあさんの顔が　波ん間に間に　写りました。『あん塩水が飲みたい』ち　言うお母さん　すぐ戻るき待つちょりよえ。

川ん中頃まじ来た時じゃつた。急に流れんなみしぶきが荒れはじめち水が大波を作っち流るる。と　思ったそん時じゃつた。まつ白い衣の神様が現れたんです。瞬間吉ちゃんは『そうじゃつた』ち　思い出したんです。この日は川に入つちゃ悪かったことを。てんもう川に入っちょるんです。

もう遅いのです。『お前は決まりを破った』　大けな声じご幣を振りながら叱りました。『すみませんでした　お許しくださいこの罪は何としてでも受けます　せめて母の願いの水を汲んで帰るまで　待って頂きたいのですが』　吉ちゃんは自分勝手な遊びでない　それを素直に言いました。神様の顔を見るのも怖い　でんお母さんは知らずに待っちょる。

決まりを破った罰は自分じ受くる事　母の願いを許しちほしいと両手を差しでーち　ゆう頭をさげた。もう泣きてーごたるるぬどうにもならん。暫くん間聞いちょつた神様も　そん親孝行に感心しち『解った　水ぅ汲んじ帰ったらすぐここに来る』こつー　約束すりゃ水くみ行くぬ許すち。

言うたかち思うと　パッと消えた神様。かき消すごたる白い衣ん神様に　深々と頭さぐるとツウジ　塩水んある所りまじ。急いじ水くみかる帰ると　お母さんに飲まするとすぐ　約束ん川に吉ちゃんは出かけました。川ん岸に座ると両手を合わせち『川の神様　お約束通り水を母に飲ませましたので　罰を受けます』と　目をつむっち神様ん言葉を待っちょつた。

そん時ですぅ　瀬渡りん波がしぶきゅあげち　立つとまっ白い衣ん神様が現れました。『よく約束を守り自分のした事ん反省しち罰を受ける気持ちは大変よい事。親孝行に免じち許してあげよう　そん代わり毎年８月１０日に　川の神に御神酒を供え事故んないよう　祭りをする事』と　言ったかち思うと煙りんごつパッと消えた。

心優しい吉ちゃんの親を思い　約束を守り自分の悪かった反省しち認めたから　それらを許してくれたのでしょう。今も夏には子供たちが『御神酒』を供え　川祭りしてかる川遊びするのが　楽しみになっちょるごたる。人間が決まりを守る事が自然からも　人間を守られちょる住みいい　世の中ぇなる約束にもなっちょる。支えあい助けあう事がいかに大事か。

方言にみられる説明

じゃあぶねぇ…大変危険ですよ、危険ですから。とっと…ほんとに、ついうっかり、うかつでした。しまうんが…終わるのが。じゃつたき…ですから、でしたので。そりゅう…それを、その事で。いつもよりゃ…普通よりも、いつもの場合よりも。かあさんかん…お母さんのかも。わらじゅ…昔使っていた藁で作った履物、ほとんど歩いていた道中の　生活の欠かせない履物で　特に長い道中などでは　足に縛りつけられるように紐もつけてある。

そりゅう…それを。ダッタキ…疲れたものですから、疲労する。いらんで…いらない、不要になった。ひよぃと…ふと、急に気づいて、突然思い出すような。

もんじゃき…ものですから。そげな…そんな、まさか、とんでもない、迷惑な、そのような。トックリュ…徳利、昔の容器で主に酒、しょうゆ、す、などの流動なものを入れたり　運んだりする場合に使う。この場合も塩水を汲みにゆくために持参する容器。でん…でも、そうですが、しかし、それはちがうかも。ごたる…そのようです、多分このようでは、こう思います。塩水…この場合は鉱泉。荒れはじめち…にわかに変わって現れる状況。

そうじゃつた…そうでした、そのようでした。ちょるんで…そうなってしまって。泣きてーごたる…泣きたいような悲しい思い。ごつ…ように。言うたかち…言ったところで。さぐるとツージ…、さげると急いで走って。罰を受けます…当然自分の行いを反省して償う気持ち。つむつち…閉じて、反省した態度をすべて任せる姿勢。

方言カルタ

い　いらぶかす儲けたごたっち損ぬする
ろ　ろくしゅうもねえ　日もある長ぇ人生にゃい
は　生えたかえ　まだかじわっと覗き見する
に　にろうじょる時は　気をつき飛びつくど
ほ　ほしがるな好きか　昼間はちと無理ど
へ　へちらうな　事んあげくにゃ苦労する
と　どうくんな　お前に言わる筋ぁねえ

ち　ちゃんとせにゃ　牛見がそこまじ来たごたる
り　りこもんな人ん世話する　役にたつ
ぬ　盗み食い　みやげを残さんごつせにゃ
る　留守したら　誰から頼め不用心
お　おいちいち　ゆう見りゃよそんもんじゃつた

わ　わきゃがると　人目にもつく怪我もする
か　がきたれも　時にゃ役いたつ道具もん
よ　夜るばなし　だんだんさがっち下にくる
た　たてひだん　ちらり見えたど官山が
れ　れんぎじゃき　味もましちょるトロロ汁
そ　ぞうくんな　お前にゃ借りはねーはずしゃ

つ　つぶさんか　うす目でん見ゆるじゃろ
ね　ねーどよいそんくし　うしろに隠しちょる
な　なぜたがるなら　ちっと下がいいけんど
ら　らく足袋じ　運動会はいつも１
む　むげねこされ　又いいこともあるじゃろう

う　うなどうも　しゅわぁねえかち念ぬおす
い　いぬんなら　土産もちっとことずくる

の　のこぎんぬ　今日は干せるるいい天気
お　おずがるな　自分もおじいんを知っちょるき
く　口水んたるるごたる　いい話
や　やえこっちゃねーが　苦を見りゃいいことも
ま　まどうちょけ　又借る時が出来ちくる

け　けんたいに　人ん砥石しゅう使いよる
ふ　ふえんごつ　食うち縁ん傍ぅぬぐうちょく
こ　こなされち　親が出ちくる甘えん坊
え　えらわんき　こそっと側ぇ寄っちくる
て　てえげーにゃしちょかにゃ　人が見ちょるけん

あ　あこぎゆうき　又嫌わるる若ぇ仲
さ　さぜくぶる　夜更けんぬりぃ貰い風呂
き　きなくせぇ　折角ん時ん尻まくり
ゆ　ゆるーたか　ままにしちきゃ戻るじゃろう
め　めんどしい　こげなはずじゃなかったに
み　見しけちょけ　すぐ取り来るかん知れん
し　しかとしもねぇん　話に花が咲く

え　えらしゅうじ　こんめーけんど味がいい
ひ　ひろげてん　ようが済んだらかぶせちょけ
も　もうせんき　言い訳した夜に又うずく
せ　せちなぎい　野辺ん送りん土ぅ寄せ
す　すばゆるほず　乳が出ちくる児沢山

ところじなかなか難しい方言が　あったじゃろうきチット説明しちみると　だいたい頷くるち思います。方言たぁ温かな意味があるからです。こげなふうに長い間使われ　大事にされたき書くんが難しゅうでん　気持ちが通じ合うたんでしょう。

方言の説明

イラブカス…騙して、ごまかして。ゴタッチ…そのようです。ロクシュゥモネエ…想像以上に違うように。ジワット…静かに、そっと。ニロウジョル…睨んでいる、凝視している。ヘチラウナ…知らぬふりして、相手にするな。アゲクニャ…結局は、その上に。ドウクンナ…騒ぎたてるな、冗談言うな。チャントセニャ…きちんとしないと。牛見が…嫁候補捜しに。ゴトセニャ…そんな事のないように。オイチータ…追いついた。

ジャツタ…でした。ワキャガルト…冗談に騒ぐと、いたずら過ぎると。ガキタンモ…悪坊たちの。いたずらする子供たちも。サガッチ…話が下品になって。官山…女性の陰部周辺の色話しの総称。ジャキ…ですから。マシチョル…加わってよくなって。ハズジャ…そうと思う。ツブサンカ…閉じなさい。ネードヨイ…ないですよ、解らないから。ソンクシ…その癖に。

チット…少し、ほんの暫く。イイケンド…よいけれど、よいですよ。ラクタビ…白い運動足袋で戦前に流行した。ムゲネコサレ…可哀相で、同情するほどに。ウナドウ…お前たち。シュワーネーカ…大丈夫ですか、心配ないの。イヌルンナラ…帰るのなら。コトズクル…頼んでるから。

ノコギン…野良着。オズガル…怖がるので。オジイ…怖い。クチミズン…予想外に美味しい。ヤエコッチャネエ…大変ですから。マドウチョケ…弁償して。ケンタイ…好き勝手に。コナサレチ…いじめられ。エラワンキ…取り合わない。テーゲーニャ…たいがいには。シチョカニャ…しておかないと。アコギ…無理強い。サゼクブル…かき集めて燃やす。ユルータカ…ままにしておきなさい。コゲナ…こんな。ミシケチョケ…見つけておきなさい、捜しておかないと大変です。

シカトシモネエ…たいした事もない、問題にならないのに。エラシュウジ…愛らしくて、可愛いくて。コンメー…小さい、小粒でも。モウセンキ…もう致しませんから。セチナギー…情けなくて悲しくて。スバユル…乳が多すぎて垂れるほどに。コゲナ…こんな。

解説がつくと『なるほど』ち納得も　意味も解っちくるでしょう。方言にはこんなふうに外かる見る　内かる感じる意味が重なっち　言葉になりたっちょるごたる。使う時や聞く時に方言とツレノウチ　そん人ん優しい気持ちも伝わるごたるき　不思議でんある。まさに『ツツロク人生』。

戦争に負けち情けねーやら　はげらしいやらじゃつた。そん反面じ苦労した時も多かったけんど　考えようじゃ負けたんが『よかった』んじゃ　あるめーか。あんまま勝ち進んじ世界中に広がっち行くと　さあ国内じゃどけーなったじゃろうか。軍人天国はどこまじ世界中を　そげー思うといい潮時じゃつたんかん知れんとも。

限界まじ来ちょつた日本の結果は　そげな事ぅ考えた時にゃ広がりすげた挙句ん果てにゃ　後ろかるそん尻尾をチョンギラレち　逆さまに吊されち。とにかく苦労したけんど幸いに相手が　よかったんかん知れんちしみじみ思う。負けた国がここまじ発展したなぁ　みんながハリクウダそれもある。が巡り会わせた運命がこげな　ご褒美をくれたんかん知れん。

戦死した人たちの犠牲やら　銃後じ苦労した人たち。家族が散り散りになった人たち。原爆ん犠牲者。みんな戦争ん被害者でんある。けんど現実に生きてちょる今を　大事にこれからも元気じ　たった一度きりの人生を有意義に　心豊かに過こしてーもんです。方言集でん読んじ。

野津原でん農家んしは米ぅ出来しこ　出すこちー我慢もしよったき　決まっち政府かる要請があった。そん度に村長は農家にハッパぅかけち　野津原んしはゆう頑張ったもんじゃ。それでん足らん時ぁ頭さげち　『でーちくれなあ』ち　頼んじ回ったち言う。

皆んなもハリクージ作ったき　思わんよきーも出来たき　やんがち来る『闇米』んご褒美につらなっち行く。そりゃまあ後ん話にしち　戦争に負けた後ん昭和２１年かるん　当時ん世相をちっと追いかけち見ろう。辛抱した戦争時代かるえーと抜けち　気持ちがちった落ちちーた時代じゃつた。

昭和２１年…タケノコ生活、引き揚げ者続く、栄養失調、ヤミ金続出、かつぎ屋、婦人警官、婦人民生委員制度。

昭和２２年…悪性インフレ、百万円宝くじ登場、ショートスカート流行、共同募金はじまる、地方議員に婦人進出、隣組廃止、６３教育制度になる。

昭和２３年…ストライキ続出、リーゼントスタイル、警視庁に１１０番、白バイ復活。

昭和２４年…日の丸使用が許可、体面交通実施、酒類統制廃止、お年玉年賀はがき発売、野菜自由販売、料飯店再開、湯川博士ノーベル賞受賞。

昭和２５年…朝鮮動乱特需ブーム、千円札発行、パチンコ流行、魚、味噌、しょうゆ、タバコ自由販売、社用族流行。

★　かつぎ屋物語

そりゃー食い物んねえぐれーひじいなねぇ。一番ひじいなぁ何か…食、寝、金、やっぱ食いもんが一番ひじいかんな。

野津原じゃ骨折るけんど米が出来る。ほんな何が欲しいんかち聞かるりゃ　食いもんなら魚になるじゃろう。そりー焼酎が続くぬうチャント見透かしちょるんが　『かつぎ屋』でんあったが　こげんしもイノチキ…ソレジ生活しちょる。朝早うんバスが止まると　大けな荷物ぅ担いじ来る。

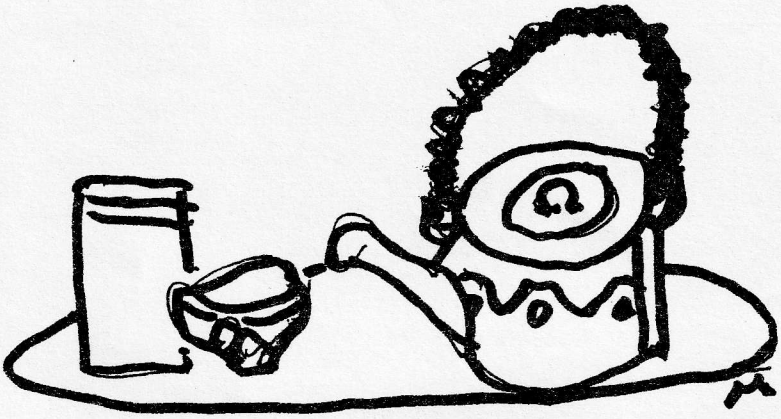
これが『かつぎ屋』ん愛称　美しゅう着飾った娘たちが　そんバスから降りるともう　そこじゃ商売が始まる。取締りが目のつかん場所が格好ん取引場所。お互いに法ん網ぅくぐっち　悲しい生活ん為でんある。そん後ろにゃ家族がおる　病人も待っちょる境遇じ　自分の物ぅ売る…なし悪いんかちついい言いとうもなる。

水枕かる一升瓶にウツシかゆる焼酎　あん独特ん匂いが周りに漂うと　もうたまらんごつなるんが人情。香りに引き寄せられち瓶ぬ抱えちツージ来る。親父が働けるるのもこれが
そう思うと米んヒトスクイくれーは　百姓にゃ朝飯前ん事。
じゃがひとつ間違ぅと違反だけじゃねー　罰金もある。

帰りん荷物は米が胴巻きつけられち　バスに乗るまじ見つからにゃいいが……ひょいと見つかりゃもう　今日働いた努力ぁ水ん泡んごつ消えちセチナゲー。それでん恐ろしいなんか言うちょれん。取締りん巡査も奥さんにゃ　白い毛糸んセェターぐれは内緒じ替えてーんが人情。そげな話も聞いた。

藁こずみ隠したたばこん葉が　取引最中に見つかっち大事。米が出せれんち強権発動に合う　厳しい戦後んいのちきん中じぬくぬく　タヘラク三昧んしもあった。そげなぬ見るにつけてん不公平ん　正直者ん馬鹿を見るなぁノゥナッチモライテーモンジャ。

民話伝承



伝説と民話から

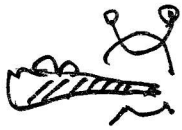
◇　一の瀬渡しに馬子ん五助ち言う　頓知者じ愛想がゆうじ又物知り　人気がなかなかよかったち言う。どこにでんおるそげなしの話かる　ちょこっと野津原ん伝説、民話をさぐっち見ろう。いつん世でん面白い話が　華ぅ咲かするけんどそん裏にゃ　むげねえ話もゆうあるもんじゃ。

◎　権現にあった『白山権現』様と　平野にあった祇園神社んお旅所があっち　毎年ん例祭にゃ両方かる　集まった祭りが賑やかかったち言う。昔しゃ物物交換じゃっち　庄内やら戸次かるも来よったち言うき　そりゃ名物じゃったんか知れん。

それじ皆んなん生活も潤う　作った物が売れる事じ品物も買えるるき　お互いん暮らしもゆうなりよった。ねえもぬぅ買いあまった物ぅ売る　そきーイノチキん基本が出来ちょったんじやろう。それだけ野津原ぁ場所的にん　恵まれちょったちしみじみ思う。

◎　いっときすると『権現村』ち　呼ぶごつなり『権現村寺町』も出来た。大けな寺があった事もあるが　無縁仏が戦国に追われち終局んしの　墓地になったんか。そげな気の毒なしの心ぅ慰めちつけたんか　人ん情けが滲み出ちいるような気もする。

当時ん権現村にゃ３８戸あり　それ意外にも神社、お寺、祈とう所、なんかもあったじゃろうき　栄えた場所には違いねえごたる。野津原ん東にゃ恵良ち呼ぶ　６５戸ぐらいん地区もあった。田んぼがいっぱいあっち　水があるき稲も出来よったち言う。



◎　浅内に長者がおっちそん頃に　開拓した田んぼが６反あっち　『野津原一旨い米』が出来たち言う。たしかに水はあるし山ん栄養に富んだ水じゃき　作物もゆう出来たんじゃろう。そんしがやんがち野津原ん　愛宕山に城ぅ作った。後ん『愛宕城』じゃが作る時苦労しち　人柱にキクと呼ぶ女性と鷲を埋めた事かる　『鷲が城』ち呼ぶ。

そんのち源氏ん頼朝かる追われた　源義経を援助する為に迎えるんが目的ん　『愛宕城…鷲が城』じやったち言う。大神季定ん１０５０年代　岡城に受け入れる為に一旦　こん城にかくまっち入る予定じゃつたか　壇の浦合戦の後になっち源氏の内輪の思惑じ　追われる身になっちしもうたそしち運命は東北に追われる身分に。ムゲネコサレ。。

◎　権現の北側にゃ当時ん武家屋敷跡が　当時ん生活用水に使った井戸だけが　ちっと形ぅとどめちょる。広い屋敷にゃ侍ん暮らしが垣間見られ　着飾った娘たちん下駄ん音が耳に響くごたる。城に務むるしが登った石段が　チット山ん上り坂にあるけんど　何も語っちくれんき知る事もでけん。新町川原かる直線に城に通ずる道は　こん登り口ん内堀じ止められち　門番の許しじ戸が開いたんじゃろう。

◎　古町が西にひろがり寺町が東に張り出し　だんだん今ん形に時代ん流れん中じ変わっちいく。やんがちしち地蔵谷が埋めらるるが　ここは城ん堀が流れでるくびり口でんある。雨が続くと大けな鯉やら鮒やらが　飛びでちしまうき下ん方じテボぅすけちすくいあげよった。

◎　野津原かる入蔵に行くにゃ　権現かる櫓戸を登るか　古町かる箒戸を上る幹線があっち　古町口《現在ん法護寺西》に出よった。平坦な野津原は住みいい場所でんある。

◇◇◇　民話　まつり餅のお礼　◇◇◇

美代ちゃんが見とうじたまらん　祭りん御輿を見に来たんが夏ん　暑い盛りん陽が暮れち　夜風が汗じ濡れた肌を　とてん気持ちゆうしちくれた夜じゃつた。今日も昼まじは芋ん草取り　そしち昼からは水ん中なら　暑さもちったコラエラルル　田の草取りじ背中を牛アブが　時時刺すもんじゃき　泥んちーた手じ追い払ぅたもんじゃ。

娘盛りが真っ黒になっち　のんだ稲ん葉先がシャツテ目の周りゅつつく。それでん辛抱し我慢したき　『こいさ御輿見に行っちくりゃいい』　父親も娘ん気持ちが透き通るごつ　解るき5銭持たすると嬉しそうに　はしゃぐぬ送りでーた。

御輿が若者に担がれち道ぅアンゲコンゲ　練り回っちそんたんびお客が　キャーキャーおらぶ　金具が提灯の灯にキラッ光るともう　美代ちゃんな有頂天になるごたる。そん時じった戸の開いた玄関に　御輿がる押し込まれちしもうた。アブネ転ぶごたるんがえーと　両手じ捕まえち止まった。

家んしがタマガッチ出ちくると　『しょわーねえな』『…』息がつまるごたるんぬ　えーとこらえち『すみません』　それだけ言うんが精一杯じ立ち上がった。『タマガッタンジャネェあんた　あんまり見かけんけんど』『はい　上村かるはじめち御輿見に来たもんじ』『そうじゃつたんな』

『まあ　おかけ　若いにー御輿しゃどげーじゃつた』『もうオズカッタ』　大声じ笑ったこん家ん　ばばさん。若い頃ぁ美人じゃつたじゃろう　笑顔が又なんとん言えん愛らしいち　美代ちゃんな思うたのん　自分もアヤカリテーち。

遠慮のう玄関先い腰かけたら　奥かる盆に盛った餅と　お茶が運ばれち来た。『しかとしもなかろうが　一つつままんな』『おおきに　美味しそう』　食べたい気持ちが丸見えん美代ちん　日焼けした手をそっとさしでーた。カンカラん座布団に座るごつ　包んだ餅んフクヨカん香り。

初めち来た祭り見物ん客　それも見ずしらずん娘に茶を勧むる　ばばさんの優しい心くばり。きっと育ちも暮らしもいい家じゃろう。自分もあげーありてー娘心ぁ　羨ましい場面になっち行くごたる。上品に整えた白い髪の端に　差した簪はどことのう気品が漂う。

あげな事があっちかるもう秋風が吹く頃になり　忙しい田んぼ仕事に娘も忘れかけちょつた。久しぶりん買い物に夏に世話になった　ばばさんの家の近所まじ行くき　『焼き米』ぅちっと土産にしゅう。ち紙袋に入ると風呂敷ぃ包んだ。ばばさんな入れ歯かん知れんち　途中じ気がちーた。

じゃけんど折角包んだきまあいいか　あれこれ思いよるうちそこまじ　そしち何か知りべんごつ前に立っちょつた。おそるおそる戸を開くると声ぅかけた。ご免ください　夏にお邪魔した……』と　奥から　ばばさんと思うたら　おぢいさんが出ち来た。『あんた夏に来たしじゅつたな』『はい　その時はいろいろと』　『うんうん　あんなーばあさん死んだんで　あんたんこつーゆう言いよったがな』『そうじゃつたんですか』

美代ちゃんな目の前がまっ暗になるごたるぬ　えーと堪えち『はばさんに　お参りさせてください』『そりゃ喜ぶしゃろう　線香でんあげて』　座敷に入るとあん時ん顔　優しい目が迎かえちくれた。時々思う事があったけんど　まさかんまさか。『無理しなんな』　ばばさんの言葉がか聞こゆるごたる。

美代ちゃんな両手を合わせち　心の中かる『おおきにばばさん　いい所り参んなあえ』　唱えるような気持ちが　あん晩の賑やかじ楽しかった時ん時間に　ダブつち二人ん笑顔が広がっち行った。楽に先行きしたんかな　いやきっとそうじゃろうち美代ちゃんは思ったし　思いたいと自分にも言い聞かせた。

ぢいさんが言うたんか　若い嫁さんがお茶を出しちくれた。美代ちゃんは土産にもっちきた『焼き米』を　そっとさいだすと　『これ　ばばさん食べるか知らんけんど　焼き米を』　そう言うと差し出した。『焼き米え　そりゃまう　ばあさん好きじ歯が悪いに　ゆう食いよったわな』

美代ちゃんは嬉しゅうじ　涙がこぼれ落ちた。恥ずかしいごたる土産が　こげー喜んじくれるなんか。『そげー好きじゃつたんなら　早ぅ持っちくりゃよかった』　あとんまつりとは言え　さかしい時なら　どんくれー喜んじくれたじゃろうか』
これが人間の巡り合わせ　運命でんあろうち。

それでん　はばさんのすきじゃつた焼き米ぅ　持っち来たことがやっぱ　ばばさんが合いたかったんかん知れん。ち美代ちんは嬉しかった。灯に光った御輿ん金具が　まるきりふたりん夢ぅ見せちくれたような　祭りん夜ん一時んお付き合い。宿命に巡り会うなんか　よくよくん因縁じゃろう。

秋ん夕日は釣瓶落としに暮るる。名残り惜しいばばさんとん暇乞い。でんお互いん心ん中にゃこれかるも　ちゃんと生きちよる事じゃろう。美代ちゃんは嫁に行っても　時折墓参りに来るとか　それははばさんの家族も　きっといい人ばかりじゃきじゃろう。

方言単語説明

タマラン…我慢が出来ない、待てない、どうにもならない。キタンカ…来ましたか、来たのですか。トテモ…本当に、非常に、心動かされて。ユウシチクレタ…よくして下さった、大切にしてくれて。マジハ…までは、そこまでなら。チッタ…少しは、ほんのちょつぴり。コラエラルル…我慢が出来るが、諦めましょう、こん回はよいことに。

ウシアブ…牛馬を狙って刺す蠅。モンジャキ…ものですから。ドロンチータ…泥のついた、泥に汚れた。ハロウタモンジャキ…払ったものですから。ナッチ…なって、結果的に。ノンダ…伸びた、長くなってしまった。シャツチ…どうしても、無理にも。ツツク…くちばしで痛める。ソレデン…それでも。コイサ…今晩。

５銭…戦中の昭和１０年頃《１９３５》の　貨幣価値として現在の５００円前後。アンゲコンゲ…あちらにこちらにと移動する様。オラブ…大きな声で叫びがなりたてる。コマレチシモウタ…中に巻き込まれてしまう、流れに流される。アブネ…危険な、怖い思い。ゴタッタガ…ようだったが、まさかと思ったが。エート…やっと。

ショワーネーナ…大丈夫ですか、心配ないですか。タマガッタンジヤロウ…吃驚したのではない。ミカケンケンド…あまり見ない人で、すが、みかけないような人ですが。ソウジャツタンナ…そうでしたか。ドゲージャツタ…どうでしたか。モウオスカッタ…遅くなってしまい。シカトシモネェ…たいしたこともない、珍しくもないが。サイダスト…差し出すと。コゲー…こんなに。ヤッパ…やはりに。マルキリフタリン…予想以上に二人の。

五味子酒

『故郷ん玉手箱にゃ輝く光りあり』

さまざまん記録文書かる　支援協力の利用させちもらいました　先人の輝かしい『玉手箱』。故郷発展に　ご苦労しちくれた皆さんの　ご紹介です。

資料…野津原物語　町政４０周年の記念誌かる
　　大分県の　人物録かる
　　世利川土地改良区の　資料かる
　　野津原歴史記録会ん　資料かる
　　方言調査会ん　こぼればなしかる

一万田尚登…明治２６年《１８９３》⇨昭和５９年《１９８４》今畑ん地主ん家に生まれた。大分中学、第五高等学校、東大法学部卒業ん後　日本銀行に入った。昭和１１⇨１５年まじベルリン駐在期間中　第一次大戦の敗戦国ドイツの　インフレ実態ん研究。

帰国後京都支店長、考査局長などん後　昭和１９年《１９４４》理事。戦時中は総裁とソリが合わんじ　冷遇されち大阪支店長に飛ばされた。が戦後ん昭和２１年に副総裁、先任ん理事がよっぽずかた追放じ　６月に大阪支店長かる一挙に　第１８代総裁になっちしもうた。

２９年の鳩山内閣ん蔵相につくまじん　８年６月間日銀の総裁を務めた。こん間にゃ金融政策じ市中銀行、産業界にも大けな影響力ぅ発揮しち『法王』ち言われた。インフレ防止に重点ぬした金融政策　見事に効果をあげち日本経済ん　安定に大けな功績も。昭和２６年《１９５１》んサンフランシスコ　対日講和会議ん全権委員の一人としち　参加出席。蔵相就任後ん昭和３０年《１９５５》衆院当選。

それかる第二次、第三次ん鳩山内閣、３２年の岸内閣ん蔵相も務めた。が昭和４５年に政界かる引退した。

現職中にいっぺん帰郷しち　東部小学校じ村民の歓迎会が。『村ん為に予算を……』ち　村民が懇願したら　『財源な国ん為に使うもんじゃき　勝手に自分の都合ゆうは使われんき　ご免な』　そん一言じ大蔵大臣の責任も　ゆう分かったけんど素朴な村民な　金庫番じゃき自由に使えるち　そん気もちもゆう解る。

こん時かる今畑に大分バスが運行されだした。こん時も福宗経由と大田経由ん　引張りあいがあったが　大田にゃ折り返しん運行、結局福宗経由に納まったごたる。経営がきびしゅうなった　平成１８年春んダイヤ改正にも　今畑線廃止が見送られたんも　こげな名残りがあったり　地元んしの熱意とバス会社ん好意かん知れん。

歓迎会じ希望が出されたぬ　叶えられん自分の立場やら　心の辛さを『冷酒チビリのみながら　苦笑した』あん日ん顔がちょこっと思い出された。大臣とはかくありなん……ち思うけんど果たしち歴代ん蔵相は　どげー考えちょるんか聞きてえけんど　そりゃ無理じゃろうなあ。

大分県かる日銀総裁が５人も出たが　これも巡り合わせん絆じゃろう。野津原かるは前後にゃなかろうが　あん時あげんこちーなっち予算が……仄かん夢を見てーかったが　正夢じのうじよかったんかん。苦労しちこす使いおーけもあるんが銭。多かりゃそれなりーん苦労もあるそうな。

森治平…明治４２年《１９０９》☞平成４年《１９９２》

科学者じ写真用ゼラチン研究ん第一人者。旧大分中学かる第五高等学校　東京大学物理科学部卒業。日本皮革に入社しち写真用ゼラチンの開発に　心血ぅ注いだ。そん頃あ輸入にたよっちょつた　写真用んゼラチンん国産化に成功。

兵役ん後　戦後は同社ん富士工場長なんかを務めた。定年じ退職した後　旭陽化学工業ん技術顧問に　迎えられちゼラチンの凝縮　ろ過　乾燥ん工程ん合理化に取り組んだ。こん人も原村ん出身じ子供ん頃ぁ　友達とオゴリしたり　陣屋取りゅしたり。そげななかじいい面もあったごたる。

農業問題やら環境問題ん研究にも　熱心じ特許も取っち『人と地球を考える』　なんかん著書がある勉強家。紺綬褒賞も受賞した。たびたび帰郷しちおったが　平成元年に野津原町ん為にち　『農林業ん振興に役立ててほしい』ち　８０００万円ぬ町に贈った。奇特な行いは出来るもんじゃねぇ。

町はこれに２０００万円足しち　１億円の基金じ　『町産業基金…森基金』を設立した。またこりゅう機会に条例も制定しち　『名誉町民第１号』としち　平成５年に町中央公民館に　胸像を建建しち感謝の気持ちゅ残した。毎年ん盆の行事ん慰霊祭にゃ　供養と供養踊りん奉納も続いちょる。

生まれた原村ん鳥井野ん小高ぇ丘　ここにゃ原村神社がある。昔しゃ馬ん訓練場じゃつたり　地区ん人たちん有効に生かす　場所としち格好んところじやった。治平もやっぱここじ友達と　つうじまわったんじゃろう。昭和２８年に村報募集ん『村八景』に入った　そん時もろうた桜ん苗が植えられ後々に補植も続けち春祭りにゃ　満開ん花見も楽しめるる。

堀恒夫……明治１０年《１８７７》☞昭和４２年《１９６７》今市村村長。今市村に生まれ収入役、助役を経て明治３９年《１９０６》に　今市村長に就任。２期在任の後　大正９年かる昭和３年までと　昭和１１年かる１９年まじん間も　村長ん職にあった。またこん間に村ん議会議員も３期務めた。

今市村ん融和ん為に中央ん石合原に　学校、役場、駐在所、郵便局なんかん　公共施設を集めち整備した。また革新会を組織しち教育ん振興、生活ん改善なんかも進め　約２００ヘクタールに植林をしち　畜産改良や原野ん開拓に力を入れ知事や全国町村会長かる　畜産功労ん表彰を受け　畜産改良ん功績じ農林大臣、全国競馬協会かるそれぞれ　表彰もされちょる。

引退後は養命会会長なんかも務め　１１５組ん媒酌も務めち　なによりん自慢にしちょった。勲６等瑞宝章を受賞もしちる　タフな人材でんあった。

岡藩や天領などん江戸時代ん名残りが　色こゆく残っちょる今市。石だたみ、後藤家住宅、丸山八幡、高岩神社　白熊練り、白家神楽、参勤交代ん宿場町、そげな古い文化財、史跡なんかの保存管理にも　心くばりしちょつたよう。そげな厳しい高寒地の地の利を生かす　巧みな能力を兼ね備えたから　今も受け継いだ人たちが　逞しく生きているんが　まぶしい。素朴が人情が今市にゃゆう似合うち思う。

奥産道路の開発　芹川ダム　周辺の変貌を逆手に利用する
今市魂が脈々と受け継がれち　石だたみにヒズメ響かせち
引く馬に　よく似合う馬子歌が
今日も聞こえてくるよう……

大分県内ん各市町村の紹介じ　当時ん野津原町がこげな形じ紹介されちょつた。

★　地形に恵まれんじ

『宇曾群山くれない染めて　霧がにおうよ朝山かえり……』ち　歌われ　古くは肥後街道ん宿場町。現在は『億万ドルの緑と水の町』が　キャッチフレーズ。県のほぼ中央部に位置しちょるが　隣ん挟間町や、庄内町が県内ん主要幹線の国道２１０号線ん　大分川上流にあっち　県産都大分ん住宅と食量供給地になっちょるに比べ　野津原ぁ県道大分⇨竹田線沿いん《現在の国道４４２号線》　地形的にゃ奥まつたところにあると言う　ハンデーも背負っちょつた。町制を施行してん今まじん　農山村のイメージはぬぐい切れん。

★　緑と水ん町へ

町長ん高屋光三郎は　こんイメージゅ逆説的に捕まえち　緑と水ん町としち売り出そうとしちょる。県が計画ちょる『県民の森公園』が完成すりゃ　町の三分の二が公園内に含まるるこつー　考えてん事じゃが　農業んほかにこれと言う産業もねえき　町民の期待も大きい。

高屋は町内ん出身じゃねえ福岡県の生まれ。造り酒屋ん二男じ子供ん頃ぃ野津原に養子に来た。大分高商を卒業ん後世界を相手に　貿易ん仕事がしてーち北米、南米を歩き回った。じゃが中南米じ業者と役人の間に　やり取りさるるワイロんひじいのに　嫌気がさしち貿易商を残念。日本に戻っち醸造業を始めた。

※　町民の信頼厚い

町長就任な昭和４１年５月《１９０６》　当時３期目で３４年の町制施行《１９５９》　歴代町長が師範学校出の教育者

じゃに対しち　毛色は違うが町民の信頼はどん町長より厚うじ　前任者町長が急死した時にゃ　町長になりてがのうじ　町政がマヒ状態にまじ追いこまれた。こんため一部町民が町政を任せらるるんは　高屋以外にゃねーち担ぎでーた。高屋自身も『なんか解らんに』ち言うが　まだ野津原村の頃。

今市村とん合併問題ん起きた時も　村長に推されち合併が出来ると　さっと辞めちしまう。難しい問題が起こると『かりだされ』たが　高屋でんあったごたる。町長就任の際には病弱そうな　高屋を心配しち町民が　町役場庁舎ん裏庭に『地蔵菩薩』を建てたち言う。今も大事に供養されちょる。

★　外柔、自分には厳しく

高屋の性格を一言じ言うと外柔内剛。つまり自分や役場職員には厳しいが　部外者には柔軟ち言わるる。こん姿勢が効を奏しち　『県民の森』誘致につながり　『しあわせの丘』の実現にもなった。両方共起工式があったばかりじゃが　高屋じなかったなら出来んじゃつじゃろうち。町民の間じゃ評判になった。

高屋を助けちょつたんが参事ん大塚三雄。野津原町は特別職ん助役ぁ置いちょらんき　身分な町職員になるけんど　実質的にゃ助役と変わりがねえ。２３年に《１９４８》野津原村役場に入り　各ポストん経験もしちょるき　町政にゃ精通しちょる。去る３０年に《１９５５》の『診療所建設』を　巡っち村が２つに割れち村長ん『リコール問題』にまじ発展した。

選挙管理委員会ん書紀をしちょつた大塚んもとに　持ちこまれた『リコール署名簿』。大塚はそれを無効にした。ところが県地方課は無効と認めたき裁判になっちしもうたが　つまりは当時ん自治省も無効ち判定☞大塚が正しかった事が証明された。

こんとき大塚は『自分の判断が間違いじゃつたら辞むるつもりじゃつた』。無効ち判断した時にゃ『村八分』ん状態におかれたが　自分の信念を押し通しち　ゆうここまじやっちくれたち回想する。

★　町長に見込まれち

収入役ん長岡一実は３８年《１９０３》かる．町議１期務めたあと執行部に入り　高屋が町長になる前に　農協組合長をしていたころ　そん仕事振りに感心した事で　高屋に引っ張られた。まじめで寛大だと評判もいい　家業は農業じゃが　『町政に取り組む間は家の事は　家の者に任せるのが当然』と　言い切る。

※　こぼればなし

高屋村長、町長の思いで…筆者の見た人間像

勤務からの帰路になっちょる　石垣の下を大切に抱いているカバン。中身は伺わなかったが　決まったスタイルで笑顔が通る『今日は何をしてますか……』　少し福岡訛があるのが心を仄かに　和ませてくれます。『庭木の素人剪定です　お疲れ様でした』と　お返ししたら『あなたもお疲れさまですな』。

吃驚して恐縮したが　行政のトップとは常に町民の姿　心情を見、聞き、心配してくれている。と思いました。気軽に声をかけることで自分の果たしている事に　どんな反応が苦情があるのではと　心に写している繊細な資質。決まった時間に決まった心くばりの　この人は任せられる　政治家であると……。

野津原能泰の人物誌

野津原ん姓が出たんが　弘安８年《１２８５》の豊後国図田帳によると　鎌倉時代ん武将『大友親秀ん３男』　母は冷泉局。通称三郎⇨大炊三郎蔵人と号す。大神５代有綱は九州に落ちた平家一門ぬ　一族といっしょに海上に追う。そん恩賞じ吉藤名野津原郷を賜り７代かる　野津原氏を称するごつなった。

８代忠綱が若く死去したき　大友能泰ん子千玉丸を養子に迎えたもんの家臣たちん統制が　悪いもんじゃき後見としち実父ん能泰が野津原城に入り　それかるは能泰が野津原氏ち言うようになった。吉藤名分４０町と永富名１６町１反のほか国東ん吉久２９町ん　地頭職もするこちーなった。それは蒙古合戦の恩賞かん知れん。

三浦恒男ん人物誌

嘉永２年《１８５０》かる昭和８年《１９３３》　野津原ん村長、県会議員、なんかをした人。野津原郷ん肥後藩士ん家に生まれ　毛利空桑に漢学を習い　戸長なんかも務めた。明治ん２２年《１８８９》合併によっち　諏訪村ん村長２２年間務めち　こん間大分郡会議員４期、を兼ねち県会議員にもなった。明治４０年諏訪村と野津原村ん合併ん後　後先３期間にかけち野津原村村長も務めた。

明治維新の頃野津原郷は深刻な　水不足に悩まされた挙句井路開発を呼びかけち　資金調達に奔走工事ん督励にもあたり　明治３６年こりゅう完成。灌漑面積は３００ヘクタールに。そん頃ん諏訪村と野津原村ん境ん　法泉寺橋には名誉傾注した　素晴らしい美橋が架けられた。当時の工費で２万円じゃつたち言うかる　いかに力量も発揮したかが伺える。

三浦恒雄たちん苦労した『芦瀬井路』

明治１２年《１８７９》三浦恒雄たち　有志と水路開鑿を進める為の出願、資金ん調達、頼母子講座ん企画なんかに　多忙ん日が過ぎよった。そげな中じ明治２６年《１８９３》に大洪水が　２７年にゃ大干ばつなんかもあっち　収穫皆無ん地区も出る始末。憂国愛郷ん士は決然と奮いたった。

明治２８年《１８９５》９月かる　２９年３月に亘り実地測量し　関門は今市村芦瀬に開き　諏訪、野津原、谷、にまでに。４月には水利組合、開鑿資金の調達に明け暮れちょつた。明治３２年７月に押川則吉大分県知事ん尽力じ　勧業銀行かる借り入れ　買収なんかも軌道に乗っち来た。

明治３３年《１９００》再測量　設計変更なんかもあったが関門は渡川に変更しち　灌漑４百町歩⇨工費１２万５千円まじなった。さらに４万円ぬ起債しち　３４年《１９０１》８月に各工区同時に着工した。それかるち言うもんな難関の明け暮れじゃつたが　とにかく２３ヶ月が過げ　明治３６年《１９０３》全線開通　一の瀬川原じ２５００人ぬ迎えち　賑やこうした『通水式』にゃ　涙にかすむごたる有様じゃつた。

第５工区は６０８間の随道に　一つも明かりんねえトンネル。そりー固えのなんのちゃねぇ　一昼夜掘っちえーと２寸進むち言う苦労。そうこうしよるうち　中心部分じえーと軟らしい岩に出合う。請負業者ん不屈ん精神が　強靱な力がそげな難関もはねのけち　２ヶ月じ貫通しち水が流れた。

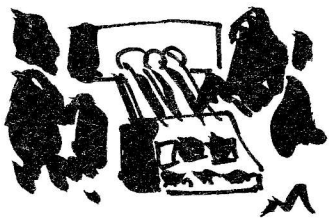
本水路ははじめ諏訪、野津原計画が　西猿田、谷ん一部も加えち４村にまたがる一大水路に。反別４００町歩幹線の長さが１里３１町３８間。支線…４里１４町、総工費が１２万４４３３円になった。

カギ小野井路とん二重負担の問題が浮上　解決策に辿りつくまじん苦労もあったが　大正４年１２月《１９１５》高屋平治ん紹介じ　久原精錬より両水路ん　余水を水力発電に利用する画期的な巡り合わせじ大正９年《１９２０》　小西郡長ん斡旋じ満場一致じ合併議決。名づけち『世利川井路普通水利組合』ち　言うごつなつた。

大正１０年１月１日《１９２１》合併　カギ小野井路を第１幹線、芦瀬井路を第２幹線ち呼び　そん後に昭和３９年《１９６４》春にゃ　大分県電気局とん協定じ　第２幹線開通によっち廃溝になった。昭和８年８月に『芦瀬井路開鑿記念碑』を　野津原町竹矢、矢の原ん金比羅山上に建立。昭和３９年５月２４日『第２幹線廃鑿式』を　碑の面前じ開催した席じ　元芦瀬井路開鑿功労者のご遺族を招待　２３方を表彰してその栄誉を讃え　長年のご苦労に感謝したち言う。

あれから長い月日が流れた。水は流れちくるんが当たり前になっちょる現在　美しい水ん鈴を転がすごたる音は　じっとそん人たちん気持ちを大事に　今日も明日も流れ続けちくるる。もう世利川ん水がどこかる来ち　どこまじ行くんか知らんしも多かろう。

水ほず人間には大事なもんじゃち　解っちょつてん果たしちそこまじ　考えち感謝しち使っちょるじゃろうか。現実にも農家ん人も詳しい事ぁ知らんかも。命ん元ん水じゃきせめて感謝する　そげな気持ちじ使っちくれたら　きっとあん人たちも　喜んじくるるじゃろうな。



威信もかけたい橋

大正２年に完成した橋ゃそん頃ん橋にしちゃ　誠ち立派な橋じそん頃ん村長さんな　自慢して一気持ちゅ　じわっと隠しちょつた。村長さんな合併になった時　『あげな貧乏ん村』ちなんか言われとうねー　それだけじゃの一じ『けっくしゃやるものじゃ』ち　たまがるごたる顔がちょいと見てぇのんあった。

そん頃ん銭じ総工費が２万円　金策かる工事ん進展なんかまじ気をくばり石工たちにも心使う　人情も兼ね備えちょつたもんじゃき　そん見事な美しい橋にゃ見物しに　来たしも多かったち言う。なんちゅうてん白い組石ゃ大分ん　『かんたん』かる運んだち言うき　船じ運ばれち来たんじゃろう。

そりゅうそん頃ん野津原ん馬車は有名じゃつたき　何台も連なっちかる運ぶ　そりゃもうめぇにちじゃき　『かんたん』かる大道峠やら芹、木の上やらもう珍しもん見たさに　待っちょつた子守ぅするしやら　暇ん年寄りがくわえタバコじふんとなえ。砂利道ん音がガラガラ響くと時にゃホコリも舞い上がる。

そん頃ん『かんたん』ち言や　遊郭んあった場所でんあった。港ん潮風ん匂いと遊郭んオシロイん匂いが　混じった田舎にゃ珍しい香りが　人間の心ん中ぇ和まするごたるもんも。馬車を引く馬方ん歌う『馬子歌』にゃ　あん五助さんの自慢の声が聞かるるごたる。『今日もはりこみよるな』『ひどかろう』『いんにゃ銭とりじゃきな』　顔なじみになったしが交わす挨拶にゃ　もう人ん巡り合わせが花んごつ咲いちょる。

石工んしは近所に宿をとっち　石風呂に入っち一日んダリぅ取るが　離れち働きに来てちょるこんしどうも　人ん子人ん親やっぱ近所んしの和やかさを見りゃ　家ん事も思いで一ちしまう。

そしち明治４０年にいよいよ諏訪村と　野津原村が合併となっち橋が光る。執念ぬ燃やした三浦村長は　そん後も３回村長を務めそん頃は　おそらく歩いてめーにち役場に通ったんじゃろう。が橋を渡るたんび『よかった、よかった』ち自負しちょるじゃろう。こん橋がもしなかったんなら　どげーしたもんか……

熊本県道が通るこちーなっち　一つん案としち辻原を回る話があったんと。なんさま今ん道は坂がひじいもんじゃき　そん頃は馬車でんブレーキゅかけち　くだったけんどそれでん　荷物が重いと車ごと馬も飛ばされち　馬頭観音様を建立しち安全をすがり　駒よけを作っち事故防止に懸命じゃつた。

そん話が出た時ぃ辻原んしが言うにゃ　道が通っち人通りが多ぅなると泥棒も来る。ちまぁほんとそん理屈も一理あるき　皆も思案した挙句に反対したち言う。まぁそげな事じ坂がひじい柿野坂《現在の場所》に決まる。そしち村長さんの執念の橋が恩恵にもなった。古い石組ん橋と新しい方式ん橋が静かに　人の行き来をじっと見ちょるこちーなった。

バイパスが出来ちダムが出来ち　そげな思いでん橋も昔ん苦労や執念も　忘れられるごつなりよるが　確実に残っちょる橋が今も通る人たちん役立つたぁきっと　喜びも又あらためちかみ締めよるじゃろう。歴史がくり返されいつか不要な物に　そげな悲しい顛末にならんごつ　皆じ見守りてーもんじゃけんど。

２万円たー今ならどんくれーじゃろうか。価値観の問題もあるが人とん情熱　人の気持ちは金銭でも計測でけん大事なもん。歴史を築き守るしがおりゃこす　今ん自分たちも不自由のう暮らせる。そげー思ぅち渡っち下から見上ぐると　なんか仄かん夢とロマンが囁きかけち　くくるごたる気持ちになっち来た。

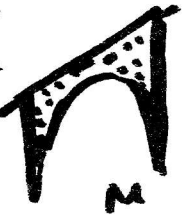
明治２２年に村が合併によっちでけ　明治４０年まで農村独特な村で辿って来た。隣接の農業と林業が主体の農村地帯。そん殆どが米、麦、を中心に穀物類が生活ぅ支え　大半は小作の田畑を借り使う小作人。じゃき出来た米は地主に納めるこちーなる。のこった分じ『いのちき』売らにゃとてん…生きられもせん。

そげな村同志が行政の進め方じ　明治ん合併が続いち再度ん合併になった。諏訪村ん村長さんな『どげんことがあってん』ち　笑われんごつ東ん玄関でんあるこん橋ぅ架くるに　執念ぬ燃やしたこちいなったんじゃつた。代々村の世話役やら人望も厚かったき　役所を自宅を開放した時代もあったぐれぇ。

何ちゅうてん谷ん深ぇ川じゃき　元は川まじおれち川を渡っち又のぼる。そげなこつー繰り返しちょつたんじゃ　人がおらんごつなる…それじ橋ぅ架くるこちーなり　ほんな諏訪村でん光る橋にしち　野津原と一緒になった時にゃ『やっぱえれぇ』　そげなプライドもあったごたる。そんな人間性も持ち合わせちょつた。

目の前まじ野津原村があるもんじゃき　思い切り素晴らしい橋にこざわったんかん知れん。やんがちここも熊本に向かう『熊本県道』になる。往還が出来ち橋が架かりゃもう　人ん通りも多ぅなっち村もゆうなる。出来たもんが何でも売るる　そげな情熱も加勢しち見事な橋に仕上がっちゆく。

熊本県道が通った頃に出来た　石組みん橋が下詰と小岩戸にもあるが　こん橋は切り石ん組み上げによっち　見事に輝いちょるき人が改めち見直す。下かる見上げた景観な上から見えんき　尚更素晴らしいそん橋ん価値が解らんのじゃあるまいか。精密機械じ切ったごたる　石ん組合せふんと小にくらしい力作。石と石んバランスがこうも巧みに　作り出す美形は人ん情熱と人ん執念が　見事に表現された宝物でもあるごたる。

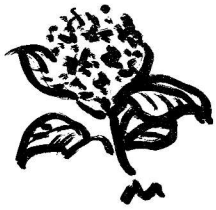


人間が今すぐでくるコツーするなぁ　自分が生くるタミーン宿命でんある。そりゃー自然のみどりゅ　大事にする事が基本でんある。みどりと人間の命たー表裏　一体んもんでんある。

戦後いっときまじゃ　手押しポンプがあっち　水汲み上げち竹んトイかる風呂場ぇ　水いれよったもんじゃ。イデん水ぅオケじ汲んじ担げたんも　チッタごうそうモ入っちょつた。ヘトも思わんじ沸かした湯　『あーいい湯じゃ　ダリが抜くる』ひげ面ん　じいさんが欠伸ゅしたら　湯沸かしん娘が　つりこまれち欠伸する。

『デンデンムシ』ん歌　ツノ出せヤリ出せ目玉出せ…『出よ出よ』　それが『出し出し』…そしち　変わったんじゃあるめーか。デンデンムシムシ　けっくしゃエーラシイのん　そげなこつかる　いつんなかめーか　『デンデンムシ』になった。

明治４４年かる今でん　保育所ん３歳児まじ習うちょるで。デンデンムシが　テマリコん葉の上ぅ　這い回る姿なんか風情があっち　憎めんし絵にもなる。



『キュウリん酢味噌あえ』

百姓ん夏んお菜に欠かせんもん　『キュウリん酢味噌あえ』がある。それも食べ頃ん野菜でんあり　簡単に手早ぅ出来るんも　忙しい夏ん仕事ん食い物に　しちみりゃ生活ん知恵でんあったんじゃろう。飯前になっち菜園かる　惜しげもねぇもぎ取っち帰ると　調子いいまな板に包丁ん　カタカタカタちそん音が　もうどこん家でん同じ頃ん同じ音。

サクサク薄切りしたキュウリを　塩じサット揉むとギューち絞る。水に戻ぃたワカメぅ熱湯に　サッちくぐらすると　まっ青になっちくるるき　目が楽しみな材料が揃うた。キュウリとワカメん香り匂いが　そこらこんげに漂うもんじゃき　『キュウリ揉みか』　親父がけっくしゃ気に入りんごたる。

酢味噌ぅ薄う伸ばしち　丈夫な手で遠慮ねぇあゆる。手の背に一つまみ乗すると味見。笑顔は上出来じゃろう……擦りゴマを惜しげもねぇ振りかけた。オテショに適当につぎわけち　飯台に並ぶると飯ショウケん　飯が茶碗につぎつぎ注がれた。暑い時にゃアッサリしたもんがいい　が仕事が暑さがやっぱ食ぅ押さえちょるき　病気やら『いきつきゃせんかち』苦になる。

じゃち言うてんそげー盆正月んごつ　ご馳走食う訳にゃいかん百姓ん経済。時い合わせ栄養も考えち　暑さかる身を衛る事もデージナ事。酢を使う見ために美しい　香りが食ぅ魅きたつる　わりにみんなが好き　そげなもんに絞ったお菜は　いいんかん知れん。料理するしの苦労もまちがいねーこつ。

『按配はどげーな』　誰も褒めちくれんき謎かけたら　『やんがん　キュウリん酢味噌あえゃ　世界一うめーど』　親父が本当ん気持ちじそげー言うと　『作ったかいがあったなぁ』

★　方言解説

お菜☞おかず、副食。しちみりゃ☞してみれば、百姓の食の生活ならば。じゃろう☞そんな事でしょう。菜園☞野菜などを植えてある家の周りの畑。惜しげもねぇ☞惜しまずに自由にいつでも　必要な程。カタカタカタそげな音が☞リズムのよいいつもの調子に合わせた。くるるき☞くれるものですから。そこらそんげ☞そこらあたり、周囲一面に。

キューリ揉みか☞さぞ待っていたように　弾む声でいつもの食べ物。けつくしゃ☞とても、文句なしに。ごたる☞そのようです。オテショ☞手塩皿、あえてオをつけるのも食に使うからでしょう。つぎわけち☞適当に按分して。飯台☞食事をする時の台…机、チャブ台、食卓。飯ショウケ☞竹で作った夏の風通しを利用した飯かご…ふきんをかけて風通しのよい場所に吊してある。

アッサリ☞簡単、こまごまでなく　手間がかからない。ちよるき☞そうしてありますから、ひかえてある。いきつきゃせんかち☞病気しないかと健康が心配で、無理は禁物。じゃち☞そうは言うたものの、思い通りに行かぬ。そげー☞そんなに、まさか。デージナ☞大事な事で。そげなもんに☞喜んでくれそうな物を、お互いの気持ちも大事に。いいんかん☞いいのかも、きっとそうだろうと信じて。とげーな☞どうですか味は。やんがん☞お前のは…夫や目上の人から呼ぶ情愛な言葉の一つ。うめーど☞おいしいよ、感謝しているよ。

★　ウナギだしカレー

カレーと●なりゃこん頃ぁ　嫌いんしゃ少ねぇごたるが特に暑い　夏にゃピリット効いたカレーは　食欲も進みそうじゃ

。夏ち言ゃバテチシマウち　ゆう聞くけんど働くこたーでーじじゃが　問題はそん仕方に計画性があるんじゃねぇ。時間ぬうまいこと使う　食ぶるものぬ工面する　よこうこつーそりー入れんとなえ。栄養んこつー考えんじ　冷てぇもんのじょぬうじょつたんじゃ　夏バテもいい所じゃろうな。

夏ちゃ土用　土用ちゃウナギ。そんウナギぅ使うちカレーはどげーな。ウナギん蒲焼ん身をほぐしち　カレーに入るるだけじ　『ウナギ味んカレー』ん出来上がり。肉たぁまたチゴータ味んする　カレーが出来たこちーなる。食欲ねえこん時期に食いこむ工夫こす健康を保つ　秘訣でんあり『夏バテ』解消にも　なるわな。

ウナギに梅干しぁ食い合わしになるち　じゃけんどラッキョなら　それも悪いたー聞いたこたーねえ。ラッキョが好かにゃキュウリん塩漬けでん　あっさりしちょつちいいで。とにかく食うこつーせにゃなえ　話しゃはじまらんわな。食うちょきゃサカシイち昔かる言うこと。

ウナギぅ夏ん土用に食いでーたんな　江戸んウナギ屋ん宣伝がきっかけ。じゃけんど暑いさかりん食いもんにゃ理屈もなりたつ。いいち言うこたーしち見ち　よかりゃ旨かりゃ尚更儲けもん。食わず嫌いやら上品ぶりやら　遠慮ひもじいーじゃ話しならんで。元気しちょつちくんなーえ。

★　方言解説

でーじ☞大事な。食ぶるもんぬ工面☞食べ物の工夫や工面。よくうこつ入れんとなえ☞休みや休憩も入れないと無理が。もんのじょう☞好みの物ばかりでは。ぬうじょつた☞飲んでいたのでは。土用んウナギ☞夏のナツ土用は７月２０日頃か

味……春、夏のお接待

春にゃ季節の山菜が賑やこうなる。３月ん所と４月ん地区があるが　旧暦じする名残りがこうしたごたる。農家も比較的ぃ忙しくねー時期でんある。ワラビ、ゼンマイ、タケノコ、フキ、ウド、ミツバ、何でんこん頃ぃなりゃ　芽を出えち具材にゃ事欠かがん。チョイト裏ん山かるシイタケも。

ゴマどまふりかくりゃ出来あがり。ヘギに盛ったんぬ大師様に供えち　『ちょいと食べちょかんな　貰い来だすと忙しいきな』　年長んバアサンが白髪が増えたが　こん場はもう皆んなが華を持たせち　本人もけっくしゃ嬉しいふう。これじゃき組うちが調子ゆう行くもんじゃ。

『はい　お大師様に参ったなら　あぐるで』　重箱をさしでえたぬ見たら　もう１軒貰ったんか底に行儀ゆう　並んじょる。『ありゃーサンショガ乗っちょるわな』　香りが漂うち。

８月は決まっち　『ヤセウマ、マメシ団子』　きな粉ん匂いが素朴じ田舎ん盆の月らしい。子供を背にした若い嫁さんが上品に手を合わせちょる。こげな行事は馴染みが薄い　それでん人の優しい気持ちが行き来するき　とてもほのぼのしち嬉しいち　微笑むぬ見ると年寄りも若い　あん頃が懐かしい。

『子供のと２人分あぐるで……入れ物ぁ持っちょらんの　ほんな後じ返しゃいいき』　気さくに２人分を皿に入れち　皺の手が母親を連想しち涙ぐんじょつた。『苦労があってん辛抱しなーえ』『はい』　今にもこぼるるごたる
嬉し涙は　きっと幸せになっちくるるじゃ
ろうち　皆んなも見送った。

五郎のあずき粥ジゲ友話

五助の『あげな話こげな話』

恩をかけたしに出逢うと　すぐそん事ぅ思いだすが　それよりも世話になった人に　出逢うてん　そりゅう思い出せん事が多い。どうしちじゃろうか　ひょいとすりゃ　忘れたふりゅうするんかん　知れん。

仲良しんガキん怒った顔は　悪ガキ友達ん笑顔よりゃ　とてん素晴らしいち　思うが。

人間の体ん中にゃ　マッチクジ２４０００本分ん　燐が含まれちょるそうな。そりーしてん人間たぁ　ゆう出来たもんじゃち　思わん。じゃき大事にせにゃなえ。

物に恵まれて満足しちょるが　それに甘えちょるしは　足らずとん　我慢出来るしよりも　はるかに心が　貧しい。足るを当たり前と思えるんは　貧しくとん　心は富ちょる。

新しい靴ん買いだちは　なるたけ汚すまいち　泥水はよけち通るが　どうかしたはずみ　チットでん汚ると　もう気持ちがチット変わっちくる。そうこうしよるうち　汚れが目立つごつなると　もうあんまり苦に　気にせんごつなる。そうこうしよると　こんだ　わざやく　泥水に入りとうなる。

言い過ぐりゃ　今までん仲良しが　喧嘩別れになる。食い過ぐりゃ　今までん元気が　病人になっちしまう。いらん世話も言うちいい事　しちいい事　そん時ん　周りやら　相手ん気持ゆう　考えんと　親切が仇になる。けんど『親切ん押し売り』も　出過ぎると叩かるる。こりゃまう　困ったコンニャクじゃ。

年寄りは若者よりか　ずば抜けちいいはずはねえ。自分の物ぃしたもんよりか　失うたもんが多いかるじゃ。偉ぶってん知れたもんじ　そんしを周りが　させちゃつたかるじゃ。

いのちきにゃ　いつも満足するがいい　じゃが自分についちゃ絶対　満足しちゃならん。賢明な考えがいいち　思うか知れんが　慎重な行動こす　大事な事じある。

運ちゅうもんは　人かる富を取るこたー出来るが　そんしの勇気は取る　こたー出来ん。子供は親ん言う通りにゃ・行動せんけんど　親んする通りん　行動はするもん。

誰も時間の　大事なこたー知っちょる。そしち秩序ん　大事な事も　ゆう解っちょる。じゃけんど　そん両方がどんくれー密接ん　関係を持っちょるかは　自覚しちょらんごたる。本当ん秩序は　時間も倍にする。そりゃーそん人ん　時間の使い方を助け　活動力も倍加さするからじある。

人は心が豊かじありゃ　一日じゅう歩いてん　あんまりダランけんど　心に憂いがありゃ　僅か１里でん　ダッチシマウ。人間のあり方も同じじ　常に明るぅじ　楽しい気持ちこす　何よりん薬じゃろう。くよくよしたところじ　『なるようにしかならん事が多い』んが　世の常じゃなかろうか。

元気な時に　病気ん時ん研究を　しちょくこと。日頃かる心ん健康　体ん健康管理　時間を大事に使う　暴飲経暴食せんごつしちょきゃ　まあ病気も近寄らんじ　元気じゃあるめーか。

他人に小言ぅ言われた時　腹ぉたつんな。又腹がたった時ぃ小言ぅ言うな。どれも下手ん芝居　にすげんだけか　そんしの値打ちも　のうなっちしまう。

『風物詩』

野津原にゃ夏ん１５日間　よこう大人も子供も　夢中になる時ん流れがあっち　そりゃもう忙しいんを　通り越すごたる。

盆の１３日にゃ月はじめに掃除した　墓地かる先祖を迎えち『盆の行事』がはじまる。初盆の家にゃ　浴衣に着替えち皆んなが　『初盆参り』をする。提灯が座敷に並び　供え物が仏壇を飾る。『静かな　お盆じございます。淋しい事で』と　決まりきった挨拶も　日頃ぁ『なえ　ふんと』ち　笑い声じ言うんが　上品にも早変わりする。

盆参りが１５日頃まじ続き　こん間に若いしたちん肝いりん『供養踊り』があり　口説き文句に乗せち　日頃ん野良姿たぁ見違ゆるほず変わる　浴衣ん衣ずれん音と湯上がりん　仄かん娘らしい香りが漂う。庭先じひと踊りすると　そこん家んしが接待ん酒やら餅やらが　勧め上手ん親戚んしに　断りきれんごつ　歓声まじあがっち故人も　昔ぅ思いで一ち喜ぶじゃろう。

１６日送り火に墓地に帰るが　盆の最後にゃ『柱松』ん灯がそん名残りを　惜しんじくるる。みんな平等に送る意味もこめられた　『柱松』は盆の風物詩ん最後。盆客が帰り提灯が少しずつ　外されち又せわしい田舎に変わっちいく。が１９日にゃ『お施我鬼』　２１日にゃ『お大師様』がある。

２３日かるん『清正公まつり』にゃ　盆に帰らんじゃつたしも帰っち来る。２４日ん祭りにゃ『大山車』も出ち　２日間なもう賑やかすぐるごつなる。２５日ん朝どまもう　声も枯れち肩が痛うなったち　嬉しい悲鳴をあぐる若いしたち。娘たちん夏ん晴れ着もここまじ来たら　影干ししち思い出と共に来年まじ　なおしちおくかなぁ。

ところじ　こん１５日間牛馬にゃ　ヒモジイ思いはさせられんき　盆前になりゃ大山ん共有地に　草きりに皆んなじ行く。朝早ぅかる馬車やら　牛馬ぅツレノウチ皆んなじ出かくる。娘たちもこん頃が夏ん盛りでん　楽しい一時でんある。好きなしと示し合わせた朝どま　もう誰に習うたんか口紅どまつけち。

草が背たけよりゃ大きいのもあっち　そん中ぇ入っちしまうともう　捜しもうさんごたる。『何かあったえ……』そりゅ言わするんか野暮じゃのう　お前はチ゛ット気を利かしい。草がおおかた出来たら　遅れたしのも加勢しおうち　ゆさゆささせち帰っち来る。誰か知らんが声んいいのが　馬子歌ぅ唄う。

揺るる荷草ん上に『鬼ゆり　なでしこ　おみなえし』なんかが　楽しそうに揺れながら帰っち来る。家ん軒下にウムレンごつ積み上げち　盆かる祭りん間に食わする。しまいんほうじゃもう　草も黄色になっちしまう。牛馬も仕方なしに食うがまぁ　人間どもん遊びたかろうち　諦めもしちょったごたる。

大掃除やら女ごしにゃ『ふとんぜんたく』やら　じゃけんど暑い盛りん『ふとんぜんたく』ち　思うじゃろうが　元元はこれも暑い盛りん外仕事よりか　せめて家ん中じ仕事ぅさしゅうち　思う優しい心くばりでんある。男しゃそん間ぇ水周りやら畑ん世話やら　考えち見りゃ農家ん仕事ぁ　酷使でんある宿命じゃつたごたる。昔も今も変わらんことじゃが。

大掃除ん後じ検査がある…区長と駐在巡査が立会いじ　検査に通らんとやり直しち　次ん日に又くる。まあアンマリがいとは無かったが。センチンの周りに石灰を撒いち　『よし合格』サーベルん音が遠ぅなりゃ　はいご苦労さんじゃつたな。こげえしよるうちすぐ秋に変わっち行く。

五助さんなケックシャ物知りじゃき　雨降りどま馬がヨコウチョルと　決まっちかる若者が押しかけち来る。小説読むよりか話しゅう聞くんが　手振りだけでん面白い。アゲクニャ時ぃ口水んたるるごたる　話がハサマッチ思わん襞ぅ　乗り出すとポトット落としもちーちょる。

『今日は何の話しゅうするんかな』　もう前ん方じ聞き耳ぅ立てたんやら　横タクリ座っちウツロン目じ見る。ナンカカッタ柱がヨガミャセンカチ　ヘッケムッケ思うしもある。

本町通りにゃ『学問所』があっち　駐在んお医者が　武士ん子やら一般の子にも　いろいろん学問ぬ教えよった。寺小屋た違うき教え賃なアンマリいらんが　厳しい事ぅ教ゆるきヨッポズ　気合いが入っちょらんと　続かんごたった。そん代わりここじ勉強しちょきゃ　読み書きかるソロバンまじ　出来たち。

そん頃ん役人たぁ久住と鶴崎かるん　役人が駐在しちょつたし　殿様に直接目通り許さるる　特別ん役人もおったち言う。２６ん村があっち見かじめしち　統制がよかったし住民が大事にも　されちょつたきそん頃にしちゃ　平和じノゾカジあったなぁ　間違いもねえごたる。

『人馬会所』ここにゃ役員が３人　参勤交代ん時ん人足やら馬ん調達　行列ん迎え送りん仕事。いつもは馬が５頭おっち鶴崎かる熊本まじん『飛脚時間』　荷物なんかん『料金』なんかん　案内かる掲示もしち　通行人の便宜を計りよった。病人があったり水がほしいなんか　ケツカ用事も多かったごたる。

『馬立て場』　馬ん休憩所じ馬方が弁当食ゥたり　馬ん利用ん申し込み受付なんかもする。馬ん使い方は交通機関ん中じゃ　ピカーじゃつたかん。

馬に続いち多かったんが『駕籠屋』　ここじゃ人や荷物運ぶぬぅ　待っよっち運ぶんが『イノチキ』じゃつた。馬に比ぶりゃ小回りが効く…今んハイヤーんごたるもん。主に府内《現在ん大分》か　久住、竹田、熊本まじん時は　途中じ中継ぎしち行ったごたる。そげんしは滅多にゃなかったが。

『木賃宿』　安い宿の総称じゃが　こん頃は庶民向けん安宿じ　相部屋でんあったが　安さが旅ぅするしにゃ何よりん味方でんある。食べ物んがついちょるんが…旅籠。自炊が出来る宿じ薪を貰うそん代金かる　木の賃…木賃宿になった。その日暮らしの者が利用した　今言う…簡易宿泊所でんある。

宿場にゃ必ず『惣庄屋会所』があった。ここにゃ役宅、内検者詰め所、帳蔵、囲籾蔵、何かもあっち　今じ言う役場んごたる所じゃつた。回りは生け垣じ囲み　ちょいと用事があってん『あしなか』じゃ　恥ずかしいき　入口ん石畳じ脱いじ入ったらしい。水がうたれち美しい　玄関じゃ身も引き締まったじゃろう。

『ご本陣客室付き』　お陣屋、お客屋、なんかの　世話をしきる役人じ特に行列ん宿泊した時は　もうそれこす大変な事じゃつた。決まった人数ん宿じゃき　多すぎてん困るし足らんでんち　頭使うこともう行列が出た後は　寝こむぐれーダッチシマウチ言う。

『高札所』　高札が張らるるばしょ《コウサツ》　野津原ん高札は８掛けじゃつた。紙８枚を張る広さじゃき　こん近所にやなかったち評判。ここにゃもろもろん情報が見る事が出来　広報ん役割ぅしちくれよったんじゃろう。新聞もＴＶもねえ頃にしちみりゃ　もう一番助かるんじゃが　そん代わり読みきらんしも多かったのん。時代ん流れかな。

ほんなそん頃ぁ『生活ぁどげーじゃつたろうか』　村役人な紋付き、傘は許されたが　一般庶民な羽織は着らない、頭巾、傘、雪駄も悪い。股引き、脚絆な木綿ならいい　ボタンも悪かったちいう。よっぽず不自由じゃつたじゃろう。

女の子は１１歳まじゃ花裏はいい　それ以上は着飾りゃ悪いし、大人ん『たばこ入れ』ん　目立つような飾りも悪い。櫛も木製んもんじ　前垂れは浅黄色、手拭いは白か無地。足袋は禁止じゃが老人、子供にゃ糸指しん足袋ならよかった。まあ身分の差がちょいと開き過ぎでんあったごたる。

『料理、食生活』　正月ぁ一汁一菜じ　盆にゃ『盆団子』じゃつたが　親戚なんかにゃ　一汁一菜を加えよった。『出産祝い』　赤飯、余裕があるしは　吸い物、魚、香もつけよった。米飯、栗飯、赤飯が多ゅうじ　晩は『だんごじる』『雑炊』が常食じゃつた。手づくりん野菜、豆腐が幅ぅやっち　甘みは柿、蜂蜜かる取るんが多かった。

貧富ん差が激しいことも　仕方なかったんかな。

『交通、物流』じゃ　判田んほうかる塚野経由じ　庄内なんかは谷を経由しち　物流があった。肥後街道による肥後と府内や鶴崎、谷経由ん庄内郷地、塚野経由ん戸次郷地なんかん　交通ん大事な交差点でんあったんじゃろう。特に府内にゃ４里《１２キロ》だけに　交流も多かったごたる。

熊本かる出た参勤交代ん行列は　大津…阿蘇…久住…そしち４日目に野津原に着く。はじめは矢の原に作る予定じゃつた。が水ん便利が悪ぅじ困った挙句に　野津原まじさがった。山坂多かったけん　野津原んデーラを見たらもう　いっぺんぎし決まったち言う。

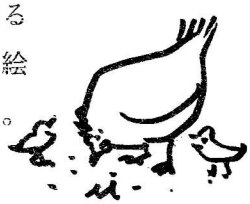
そしち次ん日に野津原じ　行列う整えち鶴崎に入っち行く。５４万石じゃき１０００人くらいん　行列ち言うが自分方ん領地を　通る時ゃちったイレクッタンカ知れん。野津原に宿場町う作った　加藤清正は領民をとてん　大事に哀れみ希望を取り入れち　土地の整理や道路の開発　治水に力も入れたち言う。

宿場町の本通りは道幅を広く取り　両側に水路を掘って火事と　生活に利用出来る用心水を流した。『お陣屋』これは殿様ん宿じぉが　往還《幹線道路》からちっと入った　場所に質素じゃが　きちんとした場所を設けて泊宿所とした。そん時は東ん木戸…サゲスド、西ん木戸…アゲスド、を閉めち警護したち言う。

東口にゃ府内に出る道　入り蔵に上る道があった。西口にゃ熊本に帰る道、谷に出る道、辻原かる大野に上る道があった。それだけここは交通ん要衝　物流ん集散地でんあった。じゃき本通りは整然とした　美しい景観が保たれち　道行く人たちも上品に見えたち言う。

両側に流るる水路は水が　木の内かる髄道ぅ通っち　権現に出たんが山添いに恵良に来ち　下ん原じ東西に別れち宿場に。早朝ん井路じゃ賑やかな　話し声ん井戸端会議ならん　話題が交わされよった。美しい水が洗面やら鍋洗い　打ち水かる農具洗いなんかにも　出番が多かった。

商店もあれこれ売っちょるき　周辺かるん買い物するしが
野津原宿場町に来るんを　『町にいっちくるき』ち　頼んで出
たち着飾った姿を思い出すと　張れ姿でんあったんじゃろう
若い娘たちん横顔にゃ嬉しさが　隠しきれんごたる
懐かしい一時でんあった。素朴な中に季節ん映り絵
が　走馬灯んごつ甦る時　そこにゃ夢とロマンも。



『まゆげん殿様』

村ん若いしん顔がちっと違う　五助さんがじっと見すえたら眉毛ぅ　剃り落としちょる。『ヤンナどげーしたんか眉毛ゃ』若者あ大けな声じ笑うと　『あってんネーデンいいき　チヨィト剃っちみた』　そりーしてん不思議な顔になっちょる。顔にゃ幾つもん役割ぅするもんがある。

目は物ぅ見たり　耳は聞いたり　鼻は匂いをかいだり　口は物ぅ食べ　話もするき何一つ　いらんもんはねえはず。神様がちゃんと付けちくれちょる。そりゅう自分勝手に用事がねえち　剃り落ちいちしもうたら　果たしちどげーかのう。

晩方五助さんが仕事かる戻っくると　『あした天気がいいき屋根替えしゅうち　思うき加勢しちくれなあ』　屋根替えは天気と人数がいるき　ゆう揃わんと仕事が出来んもん。『いいで加勢するで』　五助さんな気持ちゆう　引き受けちくれました。近所んしにも頼うじ明日は　いよいよ屋根替えじゃ。

小麦カラ、竹、縄、道板、足場　揃ぅた家ん周りにゃ　明日んシコがぐあゆう出来ちょつた。一足先に見ち回りながら　『うんこれなら仕事もハカドル』ち　安心したようじゃつた。シコしちょきゃ仕事も進むし　人数が上手に動ける。天気だけが頼りじゃつた。

朝日が昇ると頼まれたしどもが　次々と足場ん出来た屋根先い　そしち下かる材料をあぐるしと　皆んな持ち場ぉ分けおうち　仕事も順調に進みよった。手早えしが多いに材料も準備しちょつたき　昼までにゃ葺き終わっち　仕上げだけになりそうじゃつた。煤にフスボッタヌウ　取り替ゆるもんじゃき　顔が皆んな真っ黒になっちしもぅちょつた。

『ちょいと早えが昼飯しちくんなあ』　そこん親父が下かるオロウダき　皆んなも顔見合わせち『ほんな飯するか』　休憩にも頃あい　道具ぅ置いち下りる　シコした時。アタダ雷が鳴りでーた。『ありゃひとウロイあるか　葺きあげたき構やせんけんど』　見る見る西が曇ったち　思うたら稲光。

えーと葺きあげた屋根ぅ『ふんともう　晩ぎまじ待ちゃいいにのや』『ちょいとやっちしまうか』『それがいいなぁ』　急いじ昇ると手際ゆう　鋏ぅ入れち上かる順にゴミゥ　落としちおれち来た。真っ黒い顔が葺きあげた　小麦色ん美しい屋根にゆう　浮かび上がっちょる。『手早えないいが手を抜ぐなや』誰かが言う　皆んながドッと笑う。『そりゃお前じゃねんか』ち　付け加えた。『何や　おろいい事ぅ言うのう』　ソンシモいっしょに笑う。屋根替えぅ祝うごたる風情。

黒い顔が夕立ぃ濡れたけんどまあいいか　ち　そん時じゃったあん若者が　目を泣き腫らしち手拭いじふきよる。『やんなそげー拭くと目に入るど』　五助さんが慌てて　手を押し退けた。そん眉毛ぅ剃り落とした若いしの顔　煤よけん眉毛がねえき　そんまま目に流れくうじしまう。

『目に染むじゃろうが』『……』『ほらの眉毛もだてじゃなかったろうが　水じちっと洗わにゃ』　『五助さんやっぱ俺が間違いじゃつた　ちょいと目を洗うちくる』　素直に弁解すると目を　洗いに出た。眉毛んねえ真っ黒い顔　それでん笑うなぁ誰もせんじゃつた。ムゲネエチ思うたんじゃろう。ふんともう若えなぁショウネエノゥ。

『五助さん　やっぱ俺が悪かったき』『そうか　解りゃいいんど　やっぱ眉毛があるんが男前じゃ』　仕上げも済んだ屋根ぅ見上げた若者も　晴れ晴れした顔になっちょつた。

『人ん言うこたー聞くもん』

一郎さんな用事ゅ頼まれち　山一つ越えた隣りん村まじ行くこちーなつた。夕暮れまでにゃ帰っち来る　時間じゃつたき言われた傘も提灯も　持たんじ『しょわねぇき』ち　折角言うちくれた親切ぅ断わっち　出かけました。人に親切ん押し売りも考えもんじゃが　自分勝手に断わるんも　時と場合じゃ考えもんじゃつた。

途中まじ来ると大勢んしが集まっちょる。『どしたんな』不思議そうに近づいち見りゃ　なんとこん前ん大水じ橋が流れち　板橋がかけられちょる。じゃもんじゃきイチドキ渡られんき　時間がかかりよった。誰でん忙しいけんど無理もホゲも言われんじ順番ぬ待つちょつた。

そりー水も多いき川を渡るにゃ　ちっとアブネエゴトモあるし　水も冷てぇし深え所があるかん知れん。順番が来ちえーと渡ったんなケツクシャ遅れた。雨じチッタジリー道ぅ急いじ行くこちーなった。早ぅ行かんと折角言うちくれた　傘やら提灯やらが要るごつ　なるかん知れん。

水がまた増えち橋が流るるかん知れん。一郎さんな慌てはじめちしまいました。世の中にゃ自分だけじゃ　出来ん事があるもんです。元気じゃきとか物や金があるからとか　そげんこたー理由にも言い訳にもならん　世の中ん流れがあったんじゃつたこつー　一郎さんなもうしみじみ解ったごたる。

えーと店屋ん前まじ来ました。生憎んこと主人が出かけちょる。『もうすぐ帰る頃じゃあき』ち　言われた一郎さんな『ふんともう　どこまじ運が悪いことか』　口にこす出さんけんど自分にも　呆れちしまいました。もうお陽様もでーぶ西に傾いちおったんです。

あん雨じ悪ぅなった道　水が多ぅなっち流れた橋　板橋を渡るんに時間がかかる　そくう通ってん道がぼちぼち暗ぅなる　もう明かりがねえと心配ん事。一郎さんな出かけに言われた　人ん親切ぅ改めち思い浮かべ　自分がん考えん間違いにえーと　気がついたところじゃつた。

お店ん主人がえーと帰っち来たき　用事を伝えち返事を貰うと　帰り道がこげな状態じゃき　急ぎてーことも話しました。『食事でん』と言われたんも　こんだ丁寧に断わっち帰り道ぅ急ぎました。もう陽が山に入っち　かけ足早足ん気持ちが急かせ　コッケムクリん帰り道。

あん川ん橋がなかったら困る　そげな人たちん為に近所んしどうが　板橋ぅかけちくれちょつたんです。渡るしどうん為に便利をしちくれちょつたんです。渡るんはほんの2分くれー　でん心がセクともう　なりふり構わんじ　つうじつうじコッケムクリ。

傘を提灯をち言うちくれたし　そげなしん顔が目の前をなんべんも　右に左に回っち　よぎりました。足もとがえーと薄明かりん道ぅ　シラシンケン走っち。板橋を渡り切ると　体がドタンちダリガデタ。ここじシャントセニャち勇気が湧いち通り慣れた道。

ひょいと頭をあげた時じゃつた。1つ提灯の灯がチラリ『モシヤ迎えに』　そげな甘えが許されるもんか。折角思って言ぅちくれたしにゃ『要らない』ち　言うたこたぁどげする。人ん親切断わった天罰　自分に言い聞かせち前に向こうち　一目散に早足じ歩いた。

灯は迎えに行く人ん明かりじ　すれ違いざまに一瞬足もとが明るく　そして暗ぅなっち。

無性に情けのうなりました。明かりんあとん暗さは格別で何かもう　寂しゅなる気持ちじゃつた。人間な弱ぇ動物じゃき一人じゃ生きられん　そげな甘いもんじゃねえんです。人ん支えが人ん世話によっち　生かされてんおる。それが人生なんです。暗さ、疲れ、ひもじい、寒さも加わった帰り道。

強情にも人ん気持ちゅ無視した　今ん自分が情けのうなった思いでした。

そん時じゃつた　はるか彼方に明かりが１つ。途端に涙がポロポロリ流れちそん涙に　明かりが虹んごつ広がって　もうまるで扇子ぅ広げたよう。もう道も山も何も見えんけんど　明かりだけがこっちに来よる。『こっちど　お帰り』と囁きかけちくれちょるごたる。

頭ん中はジーンとなっち　もう　まっしぐらに走った。自分の弱さ　愚かさ　人ん優しい気持ちん　どんくれー嬉しいことかが　いっぺんに目の前に広がり　そん情愛ん道をまっしぐらに　走りよった自分がなんと　情けねぇことかを　しみじみ味わった夜るじゃつた。

★　頑張って用事を　無事に果たした事は　褒めてあげちょくれな。

『五助さんと京都みやげ』

隣ん美代ちゃんが　『トイモ持っち来たで』と　五助さんの家を覗いたら　奥かるゴソゴソ音がしちょる。『おらんのかな』　美代ちゃんな勝手知った　五助さんかたじゃき家ん中に　入っちいきました。ところが奥かる　ヨロヨロしながら　五助さんが出ちきました。

『どしたんな』　吃驚した美代ちゃんが聞きました。昨日かるちっと腹具合が悪ぅじ　休んじ寝ちょつた事が解った。『何も食べちょらんのじゃろう』『まあなー』『そりゃまあドウナルカエ　お粥炊いちゃろうか』『そうじゃのう　ちつと炊いちくるる』『いいで』

美代ちゃんな早速　お粥を炊きました。五助さんな肥後街道ん旅人ん　荷物なんかを運ぶ仕事ぅしちょる　馬子じやったんです。一人暮らしじゃけんどとてん　優しゅうじ皆んなかる好かるるし　皆んなん仕事も世話もゆうする　大事な人じゃつたんです。

それに人気者んじ隣ん美代ちゃんな　まるで親んごつ大好きじゃつたんです。今日もホカホカトイモぅ　五助さんに食べさせてーち来たら　こげな始末になっちょつた。早ぅ来ち『よかった』ち思いました。『お粥が出来たで　食べち元気ならんと悪いで』　皆んなが言わんでん心配しちょる。

『ふんな食びょうか』　半纏ぬ肩にちょこっと掛けち　奥かる尻べろぅかきかき出ち来た。そりゅう見ち誰も笑う者ぁオリャセン。『おけるりゃ世話ねぇ』　美代ちゃんもほっとしち　お粥ん茶碗ぬさしでーた。『すまんのや　おおきに』『すまんごたら　泳ぎなぁ』　二人は顔見合わせちニッコリに　なりました。

顔は青白いけんど　元気づくるごつ『顔色いいきショワネェスグユウナルデ　ガイト食べなぁ』『そうじゃのう　心配かけち　わりいのや』『もう　いいちゃ』心配した美代ちゃんの　お粥がうまかったんか　『も　いっぱい食ぉうか』『それそれ元気が出たな』　美代ちゃんも嬉しゅなつた。

そん時じゃつた　京都に上っちょつた肥後ん　お客さんが帰りしな　五助さんかて寄っち来た。『五助さん　今帰りました　おりますか』　美代ちゃんがお客さんぬ　出迎えると　腹痛じ休んじょる話やら　もう元気ぃなっち　お粥んお代りしち食べた事も。聞いたお客さんも中に入りました。

『大丈夫ですか』奥から五助さん　『『あら帰ったかえ　ひどかったなぁ　もう元気になったんで　こん娘に無理やりお粥ぅ食わされちな　ほりゃ見よ　こん通り』　いっぺんに元気なっごたる五助さんに　美代ちゃんも　また肥後んお客さんも　とてん喜びました。

『とにかくよかった　元気なって何よりです　お嬢さんほんとに　有り難うございます』　お客さんまじが　美代ちゃんに頭ぅさげち　お礼を言いました。それだけ五助さんなみんなに好かれ　大事な人じゃつたんです。たとえ貧しい暮らしでん　心が豊かじゃき素晴らしい　人生なんです。

『これ私ん気持ちです』と　お見舞ん包みぅ差し出しました。そしち美代ちゃんには　『貴女の優しい気持ちに　ご褒美をあげましょう』と　こんめえ包みを渡しました。『私にも』　美代ちゃんは吃驚しち　五助さんぬ見たら　『折角じゃき　木の毒はマサカリち言うき　遠慮せんじ頂いちょけ』『あい』　美代ちゃんも素直に貰いました。そん
嬉しそうな顔　『こりゃ』五助さんも嬉しそう。

お客さんな肥後に帰りました。五助さんも美代ちゃんのお粥やら　肥後んお客さんの立ち寄っちくれた　嬉しさもあっちすぐ元気になつち　美代ちゃんにゃ心かる　お礼を言いました。

『こんまえゃ肥後ん　お客さんに土産もろうちよかつたのう』　『うん京都ん櫛が入っちょつたんで』　『やぁ櫛やそりゃまぁ　櫛はのぅ大事なしに　あぐるもんち言うきお前ゃ　運がいいのう　嫁ごに来ちくりーち言わるるかん知れんど』『また　そげんトハズ言う』

懐かる出しち見せた京都ん土産　そん櫛ぅ五助さんに見すると　『これ五助さん　髪に差しちくれん』『や　俺じいいんか』『ほかに誰がおるかえ』　五助も嬉しい涙が頬を伝わるんをじっと　こらえち腰ん手拭いを　引き寄せた。

震える手じ美代ちゃんの髪に　差した京都土産ん櫛にゃ人ん　優しい気持ちがふくよかにも　込められちょるんがゆう解るごたる。人にした優しいお手伝いは　こげなふうに広がっち　また自分にも帰っち来る。こりゅう情けは人ん為ならずち　言うそうな。

★　方言子供ん世界　方言説明

チット…すこし。ヤンナ…お前は。ネーデン…なくても。ソリーシテン…それにしても。ドゲーナルンカ…どんな決果になるか。クレナァ…ください。イイデ…よいですよ。シコ…準備。ハカドル…予定とおり進む。ソレチ…それは。フスボツタ…煤けた。モンジャガ…ものですが。ホゲ…無茶苦茶。アブネゴタル…危険なようで。ケツクシャ…わ

りと。チツタジリー…少しはぬかるみ。ソゲンコター…そんな事は。エート…やっと。デン…でも。コッケムクリ…慌てまくって。クレチョツタ…貰っていた。ツウジ…飛んで。ソゲナンジ…そんな物で。シラシンケン…一生懸命。ダリガデタ…疲れが出た。シャントセニャ…しっかりしないと。コッチド…こちらですよ。トイモ…甘藷芋。

ゴソゴソ…物音、落ち着かない。オランノ…いませんか。スマン…水に潜らない。ソウジャノウ…そうですか。ドウナルカエ…大変ですこと。ジャケンド…そうですが。フンナ…それならば。オリャセン…留守のようで。オオキニ…ありがとう。ショワネェスグユウナル…大丈夫すぐ治るから。ヒドカッタ…大変でした、疲れた。ホリャミヨ…それ見なさい。スリャ…すれば。キノドカマサカリ…木の毒はまさかりには大敵カラ☞用心する戒め。

アッチ…あちら、ありますから。コンマエャ…この前は。ウン…はい。ハイッチョツタンデ…入っていましたよ。ヤア…そうですか。ソリャマア…それはそれは。ダイジナシニ…大切な人に。ソゲントハズ…そんな冗談を。ユウ…よくも。コゲナフウニ…このようなありさまに。コリュウこれを。

説明がつくと『なるほど』ち　解るような気がするでしょう。方言にはこんな優しい　暖かさがあるからです。人の心のなかにゃ　皆んな同じ思いの気持ちがあるのです。ただ使い方やそん時ん場面　相手によっち意味も感情も違ぅちくるから言葉たー　難しいんかも知れません。

『こきーあったんと　残りん田が』

なんさま狭ぇ田が多ゅうじ　コビル時皆んなが『何枚ある』か　当てやいこする事いなった。若いしは田の畦ぅビラビラ飛ぅじかずえよったが　親父はタバコくゆらせち『俺は知っちる』ち　言わんばかりん度胸据えちょつた。『どうでん５５枚んごたる』　一番先に誰かが言うと　『違うど５４枚じゃ』。

めいめいが言い張るもんじゃき　『ほんな数えたほんずつ苗を入るる』こちなった。これなら誤魔化しゃ出来めー。だんだん入れちしもうたら　苗が１つ残った。『ありゃ　見よそう５４枚じゃろうが　１つ残ったど』　『そげんはだーねぇ』どこか残っちょらんか　ちメイメイガ　鵜の目鷹ん目。

『ドウサンニュシテン５４枚んゴタル』『ヤーヤンナ数ぅゆう数えきるんか』『数えキレージャ』　すったかモンダカ　数はどうでん　５４間違いねぇこちーナッタ。ジャモンジャキこんだ親父がアワテマクッタ。『誰か　オトシ入れたんじゃなかろうのぅ』　『そげんしゃ　おらんがえ』　『それでん足らんど　あと１枚あるはずじゃ』

狐につままれたんか　ふしょうぶしょうこれじまぁ　５４枚じ落てちーた。『ほんなもう　ゴゾーかたずくるで』　くるくる巻はじめたら　何とそん下にコンメー田が１枚。チャアラ。

女性の医力

『餅を欲しがる子供』

子守しながら親が仕事かる帰るまじ　お宮やら辻ん広場やらじ遊ぶんが　子供ん日課でんあった。大けなんは百姓ん加勢してん　あたぁ薪もん取りやら風呂沸かし。女ん子でん大きゅなりゃ　『だんごじる』ぐれーは炊くごつなる。小作人な地主かる田やら畑やらこ　借っちでん作るき『食うだけ』なら　何とかも出来る世の中でんあった。

祭りでん正月でん贅沢にゃ餅も食えんき　子供心にゃ時にゃ物持ちん子が　羨ましゅうもなっちくる。日が暮れち帰りかくると　決まっち大げなしん大将が　『餅ぅくりー』ち小声じ帰りかけた子に言う。コナサレリャ困るき　『うん』　無言じ頷くとビラビラ　ツウジ帰る。こげな運命ん子供ん世界。

いさぎゅ帰った子は奥座敷ぃ　ずり上がると奥にオイチャルかまげかる　丸餅ぅつまみでーちオトシ入るる。見つからんごっ又ツージ来ると差しでーた。『すまんのや』ち心じゃお礼を言う　そげな時間が流れち行く。大将はそんまま何事もなかったごつ　夕闇に消えち帰った。

影かる見ちょつたコンメエ子供たちも　何事んなかったごつそろそろ帰っち行く。娘が持って来た子に　『見つからんじゃった』『うん』　暫く黙ったままじ歩きでーた。『ふんともう』　娘ん気持ちもゆう解るが　口出しすりゃコナサルル。じゃき益々イバルんかん知れん。

家に帰っち親に話したら　『子供どうしじゃきのぅ　じゃけんどムゲネエノウ』　いっとき黙っち見ちょくかのう　そげな声が聞こえるごたる親ん口もと。『マメシチョケ』　『ウン』娘ん母性本能はよっぽず　複雑になったんじゃあるめーか。

ひょうとすりゃ　あん餅ゃ病気じ寝ちょる年寄りに　そげな事じゃつちあるかん知れん。物持ちん子がヒンシャん子に　そげな場面じゃつちあるもんじゃ。

次ん日にこんだ昨日持っち来た子は　遊びよらんじゃつた。日暮れん帰る頃になったら　娘にこそっと言いよる。『餅ぅくりー』『うっとかたもうねえで』『……』　帰ろうとしたら『すまんじゃつたのぅ』　これにゃタマガッタ。ねえこちー何と　大将が断りぅ言いよる。

皆んなもタマガッチシモウタ。『どけーしたんな』『いんにゃ　ちょいと言いよったら面白ぅなっち』　大将らしゅうねえ返事に次ん言葉が　待たれちょつた。『皆にんなにゃスマンコツシヨッタち　思いよる　俺も本当は食いてーぐれーじゃが橋ん側ん赤子が乳がねーき』

信じられんごつん話がはじまったき　帰りかけた子供たちがそきー　あつまっち聞き入った。『餅ぅカシチ乳ん代わりするんと』　始めちしった『餓鬼大将』ん　隠れた優しさに子供たちは　改めち見直した。こなさるるち恐ろしい空想した　ハダケラレチャ困るち調子合わせた。

娘は親にこげな事じゃつたこつー　話しち『よかった大将はやっぱ　ウットドウン大将じゃ』　側じニコニコん親たちも『そげんことなら皆んなじ　助けちゃらにゃ』　区長さんがすぐふれち気持ちゅう　集めち贈ったち言う。子供ん世界にも心ん美しい餓鬼大将もおったんと。

娘たちが休みに尋ねたら　『もう元気に育っちょるき　おおきに。ご恩返しせにゃなるめぇち　家うちじ思いよるんで』。

『歩く日近ぅなっち』

『お前好きなしがおったんじゃねえーな』　母に聞かれち迷うた。本当はおったけんど　相手かる申し込まれた訳でんねぇき　家ん釣り合いもあっちかるん事。親ん反対まじしちまじ行こうたぁ度胸もいる事でんある。娘心は揺れてんおったんも　母じょうにしちみりゃ　女ごどうしじ感じんこともねえ。

『うん』　重たい返事に母もどげーもならん　いら立ちもあったけんど　こればっかりゃ縁でんあるち思う。自分も満足しち来たんでんねえが　こん年まじ別れんじゃ[illegible]ぬみりゃ　よかったんじゃろうち振り返る。女は男次第ち昔かる言う。『あん人ならいいち思うで』　母じょうにそげー言われち　えーと落ちちーた。

精米に水車に行くと友達も来ちょつた。『あんたいいなぁ』話もねえ　そん娘はやっぱ羨ましいんじゃろう　『うっとなんかいつまでん　残るじゃろうな』　『そげんこたーねーがえ』そう言うたもんの　そりゃ友達ぃする　心くばりん返事に過ぎん事じゃつた。

『あんた晩のこつー習うた』『ちゃーそげんこつう』　母にそれとのう聞いたけんど　ここじゃ言葉ぉ濁した。クルクル水車は粉を挽いち時々舞い上がる　粉が蜘蛛んエバにうっすらとついち　網ん目が見事な模様を作っちょる。友達とん語らいは相手ん心情を思うと　弾んだ話しにゃ持っちもいけん。

『辛抱しち頑張りよえ　コシャク言う時ぁビンタンぐれーやりよ』　友達も励ましちくるるんか　とっぴょうしもねえ事ぅ言うもんじゃき　もうタマガッチシモゥタ。『おおきに　元気が出たわな　ウット気が短けーきヒョイトスリャひょいと。

『車じちようど出逢うちな　こげこげじゃつたんで』　母親に申し上げたら　『リャーマア　お前どう強いなあ　婿じょうがムゲネエナ』『今んうち言うちょかにゃな』　娘はちっと淋しそうでんあったな　不安もあったけんど　強がり言うてん他所ん家に嫁ぐたぁ大変な事でんある。

母ん苦労も知っちょるし　父親はいい男でんあったが　若さが良識と行動にどんくれー出るか。これも縁は異なもん味なもんでんある。

晩の事まじ話しおうたなんか　若いしゃふんともう。母親ん頃は仲立ちが話しゅう持っちきたら　もう親どうしが決めたち言う。顔もしかと見らんまま　輿入れたぁまあ昔んしゃムトウじゃつたごたる。そりぃ比らぶりゃ何べんも　行く来るん間に決まったきちった　重みもあるんじゃなかろうか。

『ほんないいんじゃのう』『とげーしゅうか』　まあ娘にしちみりゃ踏ん切りがつかん。嬉しいごたる反面不安も残るきそりー　『あの人がふんとどげん気持ちじゃろうか』　それもまだ未練もあるごたる。と　そげな家内でんもたもたしよるそん時じゃつた。

着飾ったしがこっち来よる。娘はピンと来たが素知らぬふりじ　繕いをしよった。足音がもう解るごつ心がお互い　相思相愛に大接近しちょつた。『おご免　おるかえ』『……』　娘は聞こえんふりしち　隠れちょつた。『おらんのかな　そげんはだーねえ。ちょいと馬屋ん側ぇ行くか』

隣んばあさんが目悟ぅ見つけち　『ありゃ牛見な　ちょいと言うちくるき　ゆっくりしちょんなぁえ』　はげしゅツージせんぐゅしでーた。娘は隠れちクスクス一人笑い。度胸がいい。

母じょうが慌てち帰っち来た　座にあがるなりお客座布団ぬ引張りでーち茶も沸かさにゃならん。障子に何か影が映っちょるに　タマガッチ開けたら娘がおる。『あぁ　何なオツタンカエ　もうタマガラカシナンナ』　母親も嬉しいんが隠しきれんごたる。娘がおったに　ほっとしち『早うそくぅハワキナァ』

牛小屋ん前じいっとき時間ぬ稼いた　そんしたちが隣んバアサンの合図じ　壁なしんほうにまわつた。入り口ぃある小便たごじ飛ばすと　『おるかえ　お邪魔ぅするで』『こりゃぁまあ早ぅ上がっちくれなぁ　チラカシチョルガ』　決まり文句ももうちった慣れた文句。

薄化粧した娘がお茶を運んじ出る。どんくれーこん時ぅ待つちょつたんか　娘にしちみりゃ　『もうふんと　なしもちっと早ぅ来ちくれんじゃつたんかえ』　そげな言葉を投げつけてー気持ちぅえーと押さえち　上品に手をついち挨拶。畏まっちかる固ぅなったんか　モジモジん二人。

『今日は天気もいいなあ　ほかでもねえ……』　声も弾む仲立ち言葉がコロコロ　転がるごたる名調子に変わりえーと皆んなも和むごたる顔色になった。若い二人ん心ん中にゃもう　久しかったこん時がどれくれぇ　嬉しいもんか……。話はトントン拍子に進んじ　『もう今日　話しゅう進めてんよかろうかな』『もう　あなたん方に　お任せしますき』

待ち応えた娘ん気持ちがとうとう　喜びん婚約に結びちーた嬉しい日。『こんしとなら苦労も厭わんき』　女ん度胸は日頃は強がり言いよってん　いよいよになりゃ弱い　そげな男しにゃ解らんかん知れんが。横目じ見合ぅちニコット二人　笑顔がにきいなぁふんと。

『命をかけた水番』

腰に鎌ぅさしち荒縄を２尋　いつもん出立ちん隣ん若嫁ごが今日は　水番じゃろう早足じ通る。『今日は番かえ』『はい』イサギーき皆んなん評判がいい　愛想もいいがチット勝ち気ん所が　どぅやら婿じょうは尻敷かれちょるんか　それとん上手い使いヤイコしよるんか。

今年ゃなんか暑ぅじ雨も少ねぇもんじゃき　水番もヤエコチヤネエごたる。具合ぅ番ぬせんとヒョカット来ち　井尾口ぃ栓ぬしち水止めらるる。それじねーでん水が少ねえき　自分かたん時間のなかめにゃ　全部ん田に水がノリコナサン。ジャキ番が来た時にゃ水ぅ具合いゆう回しち　２日にいっぺんな水入れんと　作が悪ぅなっち秋が気になる。

若嫁ごが番にちーち一時した頃じゃつた。水尻ん田のしが側え来たかち思うたら　調子ゆう話しかけた。『暑いなぁサカシイカエ』『おおきに』　くせ者ちピンと来たき　『オトロシ早う来たな』　ダマシ言われたもんじゃき　用事ぅつくろうごつ『いんにゃちょいと　聞きてぇ事があったもんじゃき』　こりゃ何事じゃろうかち　向き直った。

『こん前カル聞きてーち思いよったんじゃが　いっぺん百人一首ぅ教えんな』『ちゃーウットーニエ』　そりゃお門ちがいじゃねえ　ち返したかったが本心が怪しい。『あんた上手ち言いよったき』『そげんこたーねーで　そりー忙しいばっかりじやき　水がねえきなえ』『じゃなえ俺方も水がひもじいき　ちっと早うくれんなえ』　ほら来たなち思うた。

『そりゃー出来んで　決まった時間じゃき１秒も早うはせんで』『ちっとぐれーいいいじゃねー…』　言い終わらぬうちに

『あんた　そげんこつー言ぉち思うち早ぅ来たんな　そりゃ出来んで　まあ早ぇき帰りよ』　言うなり定番の上に尻ぅマックリアグルト　腰ん鎌ぉ握りしめち腰かけた。そん形相んまあなんとオジイコト　度胸いいち思うちょつたんが　こん動作にや水尻ん男が　顔色真っ青になっちそんまま逃げ帰った。

『こしゃくなこつー　ふんと』　若嫁ごも自分の張り切りように　自分じタマガッタが　思わん吹き出しちしもうた。水はそげなドラマを横目じ見ちょつたんか　それでん鈴んごたる音ぅ響かせち　田の隅かる隅まじ流れこんじょる。割れ目に染みくうじいっときすりゃ　水が田の面に出ると広がっち　次ん割れ目に流れこむ。割れ目にたまり　そしち次に流れち。

定番かる立ち上がると　さっきん咄嗟ん自分の動作が　恥ずかしいごたるが　それだけに百姓は米づくりにゃ執念も。ヒョイトからげた尻べらぉ見ると　定番の石ん角かどがまあ食いこむごつ　色白ん肌を赤ぅしちょつた。荒れた手先じ撫ぜち見ると　ヒヨカットあん時あん頃が思いださるる。

こげな勇ましい若嫁ごでん　本当は母性本能ん熟れ過ぐるくれん　優しい情熱ん持ち主でんある。じわっと後ろかる回された手が　そん柔らしい所い触るるともう　最高潮にもなるごたるき不思議。これが又幸せん刹那かん知れん。いつまでん見ちよるうちに残り時間が少のうなった。

『もうこげな時間になった』　田のくろぉつーじ回っち水がどんくれー　入ったか　おおかた行き渡ったか。２日目じねーと貰いださんけんど　頑張っちくれなーえ。『うっとうも絶対２日に１ぺんな水くばるき』　一人言う言いながら忙しゅう田かる田に　びらびらつーじ行く若嫁ご。

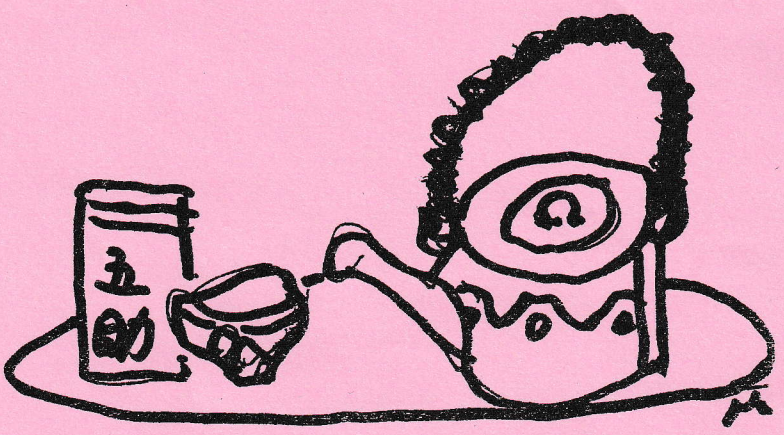
女性の底力から…方言説明

借っちでん…借りてからでも。大げなしん大将…成長のよい子供のリーダー格　厳しいけれど信頼もされている。くりー…ください、貰ってもいいですか。コナサルル…いじめられる。ビラビラツージ…忙しく走って、飛んで。こげな…このような。いさぎゅ…あっさりと　サツト思う間に。つまみでーち…他に放す、仲間からはずす、取って出す。オイチャル…置いてある、そこにとりつけ備えつけ。

オトシ…ぽけっと。すまんのや…申しわけない、感謝の気持ち、ありがとう。コンメ子供…小さい幼児、中でも小さい子。ふんともう…本当にもう困ったもの、仕方ない有様、仕方ないかなぁ。じゃけんど…ですけれど、そうですが。マメシチョク…ほっておきなさい、勝手にさせておく。ひょうとすりゃ…もしかしたら、案外ちがうのかも。

ヒンシャ…貧しい人や家の意味、差別用語だけれど方言集のため。心まで貧しいとは限らない。遊びよらんじゃつた…遊んではいなかった。うっとかた…私の家、私たちの、自分の意。食いてーぐれー…食べたい程食べたら。じゃが…ですけれど、もしかすれば。乳んかわり…母乳の代わりに。ハダケラレチャ…仲間はずれされてしまって。ウットドウン…私たちも、私のこちらの人たちは。コシャク…生意気な。ヒヨィトスリャ…もしかしたら。リャマー…あらまうそれは。オッタンカ…居たのですか。ヒョカット…うっかり急に思いだしたように。サカシイ…健康で元気な事。

民話伝承



野津原の民話、伝承から

★　農村地帯にゃ古ぅかる『手間がい』ち言う　美風があっち困る時ん助けあいが　お互いんイノチキに大けな役割も　果たしよった。自分かたん家ん仕事じゃ　田普請、土手普請　屋根替えん時なんかにゃ　手がいるき　隣近所んしを頼むこちーなる。そきぃ日頃んつきあいが　助けあいが思わん力にもなる。

こりゅう『日頃往生』ち言う。自分がん都合んじょう言うち調子んかおー言いよると　いっぺん信用がのーなるともうトリオーチクレン。雨ぁ降ろうごたるに屋根ぁぼる。ちょこっとツクロヤそれが出来るに　言うち断わらるりゃ他んしも　手も口も出さんき『お手上ぎ』　なっちしまう。

明日『道つくりゅするき出ちょくれ』　肝いりがフレち回るともう務めちょかにゃ　困る時ぃ加勢しちもらいださん。『いで普請』ぬしゅうえ…『あっこんしは忙しいじゃねー』　誰かが気がちーち口ぅ挟むと　『何事かあるんかえ』　『お客ごつよだっちょるごたるで』『ふんとえ　ほんな一日のばそうか』になる。

お互いが気持ちゆう『つきあう』こたぁ　お互いん為でんあるきあんまり自分勝手じゃ　世間な通らんもんじゃし　そりゅー又皆んなも無理は言わんもんじゃ。『ウロイヨコイするかな』　区長が来ち年寄りに聞きよる。上手もんじゃち思う　聞いち決めたんなら困るしにでん　言い訳が立つ。

『ウロイヨコイじゃき　餅ぅてーたで』　手盆に乗せち持っち来たな　カンカラん匂いがまだしよる。殺菌力があるち昔かる使うこれも生活ん知恵。『うまかろうごたるなー』『どげーか知らんに』ちょこっと遠慮しち渡すと　『いつもすまんなえ』　そんひと言がどんくれぇ人ん心を大事にした言葉か。

『竜の恩返し』

水ん少ねぇ暑い夏じゃつた　えーとたまった水に安心しち夜中ぇ　引き上げち次ん日に行っちみると　まあ何と水はのうなつちょつた。『こげんはだーねぇ』ち　不思議に思うち　ある晩に寝ずん番しちょつた。何と子連れん大蛇が水飲みに来ちょる。そん晩はそんまま帰っち　年長に話すといっとき考えちょったが　『子持ちなら無理もねえこつじゃ　助けちゃちちゃどげえか』ち　諭されたが自分どうも　子育てん頃ぅ思いでーた。

そん晩に手作りん酒を持っち行き　『稲は絶対荒らさんごつしちょくれ』　そげえ言うち畦に置いち帰った。そん年は水も少なかったが　米もわりにゆう出来た。次ん年も又干ばつじゃつじ　長老と相談しち『雨乞い』ぅ　する事ちなった。燃え上がる炎に黒煙りがそこらじゅうを　流るるなもう必死ん思いん百姓ん　叫びんごたった。

そうこうしよるうちー西ん山ん方　稲光がしたち思うと小粒ん雨。なんと天祐神助たぁこんことか。そん時じゃつた　老人の耳にたしかに聞こえた『あん時ん助けちもろうた　お礼ですから』……やっぱ人間が困っちょるぬ見ち　同情しちくれたんか大蛇ん　恩返しん雨じゃつたんか。

それかるは水ん少ねえ年にゃ　決まっち雨ぅ降らせちくれ実りがとてん豊かになったき　百姓もちった景気もゆうなった。そげーなると元気にもなっち　サカシイモンジャキ　働けるるもんじゃきナオサランコト　だんだん皆んなが潤うち来た。長生きもするし喧嘩ものうなつち　平和になったもんじゃき心が和やかになっち皆んなニコニコするしのじょう。

皆んなは喜くうじ寄り合いの後　田の畦ぐろに祠を建てち竜神ぬまつるごつなった。豊作、金運、延命、家内安全　なんかが　御利益があるもんじゃき　あっちこっちかる参るしも多ぅなったもんじゃき　夏に祭りをしち『細くてん長いご利益あるように』ち　ウドンを供えるごつなった。

困った時に助け合うなぁ　人間でん動物でん生き物は皆んな同じ事。相手ん事ぅ考えち自分がち　思い合う時そこにゃいい事がやっぱ　あるもんじゃちしみじみ思う。百姓は米が出来んこちーにゃどげもならん　それにゃ水がどげぇあってんいる。ちなると天気もじゃが　水ぅいかに貯むるかが決め手。

竜に飲まれた悔しさを恨んじ　コナシタラそれは人間に害になっち　帰っち来たんじゃあるめーか。ちょいと待て…そこに優しい思いやりんある気持ちが　長老にも百姓にもあったき思い合う気持ちがあったかる　結果的にゃ皆んなが嬉しい事ぃなった。世の中いつもこげーありてーもん。

あん竜ん子供はどげーなったじゃろうか　ひょいとすりゃ今頃ぁどこかじ『あげんこともあった』ち　思うでーち過ごしちるんじゃろう。いんにゃきっと『ありがとう　こげー大きゅうなっち人間の役にたった』　そげな思いじ大蛇自分たちも今頃は　思い出しちょるじゃろう。

祠に時折供えられた『御神酒』を　頭をさげち飲みにくる時宿命に　生かされちょる万物は　皆一人だけでは生きちょれんこつう　ゆう知り解ったんじゃあるめーか。じゃき生きちょらるるんじゃろう。今年も雨は少なかったけんど　穂波はいいごたるぬ水回りん　百姓が笑顔じねじ鉢巻きがゆう似合う。

８５　『免税に救われた人たち』

世利川井路ん水が流れちくる頃じゃつた。畑がタンボに変わると米が出来る　そしち米づくりも楽になる。じゃがそん分実りがゆうなるき　税金も高ぅなる。ジャモンジャキ水がすぐ入る所でん　タンボにゃせんしも出た。そげなこげなん事じ水が来るこちなっち　田が少ねえとカルウ分が多ゆうなるき　タマガッチシモウタ。

地主も困っちしもうち自分もそげーは　出せれんもんじゃき特別に　イットキ税金ぬ安うしちもらうごつ　頼んじなんとか話が出来あがった。こりゅう『鍬下年金』ち言いよった。ところじ小作人にもちっとずつ　自分の物いしちゃどげーえかち　勧めたら『ほんな米が出来りゃ　やんがち借銭も返せるるかん』ち　切り替えたしもおった。

地主もおおごとん畑が田になるき　ぜーぶん銭がかかったごたるが　いままじんごつ畑なら『サザメ』も　ちっとじゃつたんがこんだは　米が取るるとなりゃやっぱ　実入りもゆうなっち　目に染むごたる井路負担じゃつたが　何とかヤリクリュしち急場も忍べた。

小作人もこん際ち借銭しちまじ　畑が田になった土地ぅ買うたもんの　そこはそこじヤッパ持ち着けんもんな　難かしい荷物になっちしもうた。ヤンガチそうこうしよるうち　元にもどっちしもうたしも　あったごたるな仕方んねえ世の中ん流れじゃろう。

でん水が来たな有難ぇことじ　畑所がアッチコッチ田になると　そりゃもう活気も違うちくる。稲んあちー麦も植えらるるし　草取りがぜーぶん楽にもなった。よかったの

うち水ぅ連れち来ちくれた　工藤三助さんにゃそりゃもう皆んなが　心かるお礼を言いよった。が時が流れち時間がすげち　人が変わっち行くうちにゃ　もうそげな時代ん事も忘れかかっちょる。

所じ間口ん狭え所が多いなぁち　これもそれなりん考えが込められちょる。昔しゃ税金が道ぅ挟ぉじ　間口ん寸法じ割り出ししよった。じゃきイツンナカメーカ間口ちゅ狭ぅ奥行きゅ長ぅするごつなった。まあ苦肉ん策とん言われんこつもねえ。

じゃもんじゃき広い屋敷でん　格好じゃでーぶん違うちくる。ぶげんしゃは縦横が同じぐれーでん　苦になるめぇが　同じ広さでん間口が狭えと　税金な相当ちがいよったち言う。江戸期になっち出来た　野津原ん新町ゃそん典型的ん　屋敷割になっちナルタケ　安く出すごつしたち言う。そきー政治ぅするしの知恵ちゆうか　今流んアイデアでんあったんじゃろう。

竹の内地区じゃ戦後まじ　区費割にそん家ん財産に合わせち　割っちゃつたち聞いた。フント粋なハカライチ思うが　どんしかが区長ん時ぃソゲーシタ　そん気持ちにゃ皆んな喜くうだじゃろう。時にゃ家ん経済も浮き沈み　そくう時ん代表者が長老と相談しながら　定期的にゃ調整したんじゃあるめーか。

お互いがお互いん力量じ　無理んねえ出し方はいつまでん　地区んために務め合う美風も　作り出したじゃあるめぇか。こん頃ぁ貰わにゃ損ゲンコツデンモラウ　だすなシタモダサン　そげな世の中やっぱ心貧しいち　思うがなえどげーなえぇ。

お膳箱

野良から仕事ん区切りがちーち　親たちが帰っち来た昼間留守番の　ばばさんとコンメー娘は　囲炉裏ん傍じ待っちょつたが　ヤッパ嬉しいんじゃろう　『お膳箱』を抱えでーち並べた。めいめいん茶碗やら箸が入っちょる。百姓は忙しい毎日じゃき　朝飯ん後はそんまま食べなりん　茶碗や箸が入れちゃる　めいめいのお膳箱でんある。

『帰ったな』　ばばさんな外ん仕事するしに　チャントご苦労をねぎらうも気持ちゅ　忘れんじ言うなぁ自分も今まじ言われた　そげな心くばりゅう大事にしちょるけん。『待たたなぁ仕事んキリがつかんじ』　言い訳でんねえ　仕事んなりゆきぅ話すことじ　留守番も安心するき。

泥足ぅサブサブ洗うと　ずり上がっちいつもん所い　座ると注いだ茶を飲み始めた。『ばばさんの言うこつ　ゆう聞いちょつたか』『うん』『ゆう遊うだで　なえ』　親父に返事と孫娘にも　ちゃんと言う。『オカサンモゆっくり　ヨコワレンナァ』『インゲゆっくりしちょつたで』

ひじい外仕事に比ぶりゃ　家ん中ん仕事ぁ楽なもん。じゃがソリャー目に見えん事が多い。ソクゥお互いが分かり合うことじ　家に中は調子ゆういくもん。朝ん味噌汁がぬくもつたぬぅ　鍋んまま土間に抱えあげた。あん味噌ん香りが皆んなん心に染み入るごたる。

『お膳箱かる出して』『あい』　素直に返事すると親父ん汁碗ぬ　持ッチ　はあじょうん側に座った。いつんなかめかそげな躾が身にちーた　ヤッパ家にゃ年寄りがおるき　そげな事ぅビョイト思うと　母親にしちみりゃ嬉しい。『こぼさんごつせにゃ』『あい』

『オマエガンナあるんか』　ちっと少なかったんか味噌汁が　ははぁじょうんがねえごたる。親父が横目じ見ち心配したんか　『こりゅう飲みぁいい』『いいであんた食べよ』『おかちゃんにゃ　うっとがんぬやる』　娘がセワシュ立つと自分の　味噌汁を母親に渡した。

囲炉裏ん木が燃えソボクッチカ　煙とうなっち目に染む。思わん親父『こりゃー煙てーのう』　瞬きぅしながら煙りぅよけたが　涙が出るなぁ煙てーだけじゃ　ねえごたる。親子が孫が一つ屋根ん下じ　フウユウイノチキガデクル。それも皆んなが思いやうかるこすん事。

孫が遊びかる帰ったんが　チッタ夕暗ぅなる頃じゃつた。『ばばさん』　孫娘が遊びダツタンカ　ツゥジ帰っち来た。『あぁひもじい　ばばさん何かねぇ』　『ありゃ帰ったんなお膳箱に　ヒヤキが入っちょるき　手を洗うち食べなぁ』『チャー嬉しい　ばばさんな　あるん』『いいで』

お膳箱かる取りでえたヒヤキ　鼻をすすりあげながら食ぶる　孫娘ん横顔んなんと喜ぶ笑顔。『うめーな』『うん』よっぽずウマカッタンジャロウ　トキノメニ一つペロリ食べちしもうた。『まぁ　もう食べちしもうたんな　まだいるな』　孫娘ん返事ぅ待つと　『もう腹いっぱいになつた　ばばさんな　食べんの』　『ばばさんな　皆んなが帰った時にするきいいで』

『残りは　お膳箱にいれちょきよ　ねずみかる取らるるで』　『あい　後じ又食びょうかな』　お膳箱にはいったヒヤキにゃ　ばばさんがん精一杯ん　愛情がつまっちょつた。

『自然に覚えゆる感謝ん心』

こぼした飯粒ぁ拾っち食わにゃ罰があたる。食うもぬぅ粗末にすりゃ目がつぶるる。『頂きます』ち言うんは　そん物ん命ちゅ貰うこちーなる　そりゅう自分がん命にする。じゃきそげな物は人間に食わるるこちーよっち　『人間に生まれ変わる』こちーなる。そげな宿命によった生き方じゃき　満足しちょるんじゃあるめーか。

お仏飯ぬあぐる時　シヤ手にちーた飯粒。そんまま手にちいた分は頂いち食ぶる。そりゃ欲でんねえ　ご褒美ち言う。物ぅ粗末にせん心がけにやっぱ　仏様も許しちくれたんじゃろう。下げた時ん冷とうなった飯　金具ん匂いが『おりこうさん』ち言うちくるるごたる。

そんまま頂くと『元気になっちょくれ』ち　聞こゆるごたる仏様ん言葉が　耳に残っち気分がいいのん　仏様とん心が結ばれたこちーなるんじゃろう。夏どま早めに下げんと　ゴミもつくし蠅もたかるじゃろう。時にゃイヤリも引っぱっち　ヨイショヨイショ帰りよる。

盆前になりゃこれがまた　忙しゅうなるが早めに磨くといいが　田植えん済んだ後に残った　苗を供えたあとん分を乾かしち　それに灰をつけち磨くと　まこち美しゅうなる。梅雨がすげちチット薄汚れたお仏飯茶碗　仏具なんかと磨き洗うち　盆のシコウも出来ると暑さも　フントモウ暑くるしいなえ。

さっぱりした仏壇に何はのうでん　心が気持ちがこめられちょりゃ　言うこたーねえが時々ゆう見る　火をツクリャ燃ゆるごたる花じゃ　チットムゲネエナエ。朝露に濡れた草花でんあげ変えちょきゃ先祖も　喜くうじ皆んなを護っち　くるるんじゃあるめえか。

しゃつち言いつのるしがある。『そげんこたーあるめぇ』にち　思うがソリャマァ思い思いん勝手。後じ『しもうた』ち気がついたらもう　遅かったじゃムゲネコサレになる。心が貧しいとついつい　ハラタチマゴレに言いつのるが　これも日頃かる思うちょるんが　チョコット出るんじゃろう。

道に迷ぅたしが聞ききよるぬ　横かる口うサイデータ。人ん親切ぅ横取りするんが　面白いちトッペンネエ考えんしもおったもんじゃ。教えちもろうたお礼ち土産を貰うたぬ　見ちょつたそんしが　ついち行くと聞かれんにぃ　いろいろ話しゆ仕掛けち嫌われよる。親切ん押し売りゃハヤランのじゃねえ。

わかされじ暇乞いした人が　『しもうた　ありゃどこか』慌てて困ったごたる。『どげーしたんな』『いんげ　ゆう考えたり日がすげちょつた』　どうやら日にちゅう間違えたんか……『昨日まじじゃつに　どげーしゅう』『何事じゃつたん』『ヒアイを納めにゃ悪かった』『ゆう言うち断りゅう言うたら』　真剣困った様子じゃつた。

知らん所じ困ったじゃろう　『わしがツイチ行っちゃろう』　親切に口利きしちやったら　『正直に話したもんじゃき気持ちゆう許しちくれた。真面目に世渡りすりゃそこにゃちゃんと助けん神もあるもん。あん時下手な言い訳でんしち　クジゥコネラルリャもう　元も子もなかったかん知れん。

『ものも言いよう』　人にゃ親切にしちょくもん　いつか自分じゃつて世話になる。押しうる親切も考えもん　嫌われたんじゃ虻蜂取らずになる。これが世の中人ん道。

８４Ｐ　イノチキ…生活、生きて行く。トリオーチクレン…相手にしてくれない。ツクロヤ…修理すれば。フレち…連絡して。イデ…井路、水路。ウロイヨコイ…雨で休む。

８５Ｐ　こげんはだ…このような事では。どげかえ…どうですか。そげぇ…そんなに。そうこうしよると…いつの間にか、いろいろしている間に。サカシイモンジャキ…元気で。あるものですから。ナオサランコト…いっそうの事。

８６Ｐ　畦ぐろ…畦の周り。やっぱ…やはり。どげも…どうにも。コナシタラ…いじめたら。ひょいとすりゃ…もしかしたら。あげんことも…あのような事も。こげー…こんなに。

８７Ｐ　ジャモンジャキ…そのような訳で。タマガッチシウタ…びっくりしてしまった。イットキ…しばしの間。サザメ…小作料。ヤリクリャ…生活上手、知恵使い。ヤンガチやがて、そのうちに。

８８Ｐ　イツンナカメーカ…少しの間に。ナルタケ…なるべく。フント…本当に。ゲンコツデンモラウ…拳固でも貰う。

８９Ｐ　コンメー…ちいさい。チャント…しっかりと、きちんと。サブサブ…あらましに洗う。ヨコワレン…休めない。インゲ…いいえ。ひょいと…モシカシタラ。

９０Ｐ　オマエガンナ…あなたのは。ソボクッチカ…うまく行かなくて。フウユウ…いい按配に。ダッタンカ…疲れたのか。ツウジ…走って。トキノメニ…あっと思う間に。

９１Ｐ　シャ…つい。イヤリ…蟻。ツクリャ…つけると。

９２Ｐ　ソヤマァ…それはまた。トッペンネェ…とんでもない。ヒヤイ…利息。チョコット…ほんのすこし。サイデータ…差し出した。おごめんな　こんめー田がこき遊び来ちょっち　迷惑かけちしもうたなぇ

方言のいろは

今回も　ご愛読を頂きまして厚く感謝しています。古い生活用語でもあった故郷の方言　情愛のこもった言葉の端ばしには人の　心がいつも相手を大事にする　気構えも備わっているようです。方言で使いながら方言がつぎつぎに　生まれ広がって行ったのではと　しみじみ想い大事に残したいものです。

品物を売っている…『買わんかえ』☞『いいで』　これは品物は『いります』と　『いりません』に　別れます。このように同じことが言えるものが　案外多いのです。

『食べちみらんな』『行かんな』『作っちあげよう』『注射しちょかんな』『御輿かつぐな』『サービスにくれるで』など『いいで』『いらない』ち　はっきりせんと　後じおおごちなる。

アクセントに一つはいった方言…オケノ、クイノ、カイリノ…ここじゃ『ノ』がちーち　起けたばかり、食うたばかり、帰ったばかり　になる。ところが…オンノ、シランノ、クワンノの時んノは…居りますかの確認、知らなかったのですかの確認、食べないのかの確認。となる。

クイダチ、オケダチ、ネダチ、のダチは…そのすぐ後の事。じゃが　ヨダチ、ハヤダチ、チャダチ、ツレダチは…準備はじめ、早く出発、お茶を飲まない願をかける、みんなで連れだって、連れ出して行く、友達が出かける、となる。ツイチク、ツイジョケ、ツイジャラン…の場合のツイは…一緒に行く、注いでください、継いであげない。となる。ツージ、ツーデン、ツーダラ…こん場合は…飛んで、飛んでも、飛んで行ったら…と似ていても　響きが相当違って返ってくる。

方言のひろがり

日本語は想像力が豊かじ　そん言葉ん一つ一つに夢が希望が　湧くごたる方言も多い。書く事が苦手な人が多かった昔は　書く以上に夢や想像を膨らませた　言葉んやりとりじ相手を　大事にしたり時にゃ傷つけたり　喧嘩にもなったごたるが　それでも生活に欠かせられんだけに　それはそれなりにちゃんと　大事にしよった。

人間の体にしてん想像がある方言が　聞けば噴き出しそうな言葉や　思わず笑顔にんなる言葉もある。そげな方言のひろがり……

カミツミイク…散髪に行く。アタメキタ…感にさわるような。ズゥタンガイテェ…頭が痛い。ミミザワリガワリィ…聞き捨てならんような。ツランカワ…顔の表面。メンタモーヒンムケ…目を見開きなさい。ミミュウホジクレ…しっかり聞きなさい。クチミズタレチ…思わず食べたくなる話。クチャワリケンド…話し方は下手だが。

アゴンサカシイ…口やかましいが。メジシラシィ…目で合図ウインク。メニスボガイル…目にゴミが入った。ズツコゥハッチョケ…米かみにはる熱取り膏薬。ムコーズロミヨ…眉間を見なさい。ウシロアタマガウツ…後ろ頭が痛い。クチュモチットアキ…口を大きく開けなさい。ホウタンガカイィ…頬が痒い。

メジリンシオトレ…目尻の皺に気をつけて。ノズウトーチトゥル…美味しい飲み食い物。ウシロクビャショワネーカ…後ろ首は世話ないの。カタメデンカシナァ…ちょつと見て加勢して。キジンヒダリマイ…つむじが左回り。ユワニャドゲーデン…言わないならどうでも。クラゲーアタマ…前後に長い頭。カスワライ…人を卑下した笑い。ナミダガコロゲオツル…大粒の涙を流す。ウソバガエエラシイ…親知らずが可愛い。クチャシャントアキィ…口は大きく開けなさい。オチョボグチャイイノゥ…口の小さいのは可愛いいなぁ。

イガセク…胃が痛む。カトーコス…暫く愛欲お休みで元気が溢れる。カトーハズス…肩を入れ替えて替る。コテサキャウマイ…入念な技術者。イビジョウネ…指先が強い。ツミューキレ…爪を切りなさい。コイビンイビキリ…小指で指切り。テノトカキリ…手のひらに一直線の皺がある。フルイガキチ…震えが始まって。ヒトサシイビャハリコム…人指し指は出番が多い。

ナカイビャシャントモン…中指は主役者。ムコバラミ…妊娠すると婿さんがツワリ。オヤイビャオジイ…親指は頑固者。モチオモリンスル…何となく邪魔になる人。クスリイビャベニサシ…薬指は紅を指す。キォツコーチ…心くばりしながら。ウジュウマクレ…腕まくりして元気者。ヒヨカットキカルリャ…急に聞かれると。イビサキャドキデン…指先は都合よく回って。

シビレチシモゥタ…しびれで感覚が鈍くなり。ムニャモユル…胸焼け。燃え焦がれる。キモガイル…胸焼け。カタンカワリ…替り役引き受ける。リョウテジマニアウ…充分間に合っていますから。セナココスル…背中を洗いながしてあげる。センタクイタ…痩せて洗たく板のような。キオムージコタエン…気を揉んで心配する。ヘソガチャオワカス…格別におかしい事。

シリャミスンナ…尻は見せない事。ヨコバラガイテェ…横腹あたりが痛む急に走って。ワライコクル…おかし過ぎて転げる程笑って。ドテッパレーアノゥ…腹のあたりに穴を開けると。シリモチ…転げて尻からこける。シリベラ…尻の方。オーコゲツ…とがった尻。アシガツッチ…足がけいれんに。マタクラ…股間の周辺。生殖器など一帯も。シヤガミコム…座り込んで。ベタアシ…平たい足。アシグセ…足のいたずら。アシタッシャ足自慢の人。アシバエェ…逃げ足の早い。アシブミ…待ち気しょくで。ビンボユスリ…小刻みに足をゆする。アシュタゴケェチ…足を捻挫して。クネッチ…くねらせて。捻挫して。ツッカカッチ…つき当たって。

方言が広がる伝わる　そこには人の優しい気持ちがツレノーチ街道を行き来したんじゃろう。江戸期間には野津原は　肥後領じ参勤交代ん時ん土産ん一つにも　あったんかん知れん。そう言ゃ京都、大阪、神戸なんかんしが使う　言葉と共通するんが多い。そげなんぬチット並べちみた。

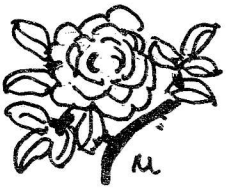
コシイ…ずる賢い、けち。
ズリー…横着、時間がかかる。
タボウ…辛抱する、欲張り。
チンメー…小さい、欲張り。
ナエル…体調が悪い、萎びる。
アゴタン…口達者、悪言葉。
オチョクル…おだてる、悪巧み。
オトンボ…末子、幼稚な子供。
インデ…帰る、よいです。
ウッツカッツ…やっと、ほぼ同じ。
エブ…荷札、目印。
テゴ…手伝い、気くばり。
トット…うっかり、慌てて。
ネンシャ…几帳面、性格。
テカケ…囲い女、情婦。

オーキニ…有り難う、感謝。
キバル…力む、頑張る。
ハタカル…開く、おおっぴら。
ホメク…むす、気温が高い。
ヨダキー…大義な、疲れた。
オツクリ…刺身、生魚料理。
ヒネル…皮膚をつねる。
オトコシ…男性、男の人たち。
ドダイ…途方もない、予想外。
イヌル…帰る。戻った。
ガナ…それ相応、価値観。
チギル…もぎ取る、引き取る。
ドダイ…とにかく、だいたい。
ニジクル…塗りつける、塗る。
ソゥ…そのように、でしたか。

帰り道じチョコット立ち寄った　店屋になんかじすぐ覚えた言葉そんまま持っち帰っち　得意顔じ使う。五助さんじのうでん使いとうなんな　人情じゃろう。でん『オーキニ』なんか　アクセントこす違うが最高ん言葉ち思う。語尾を少しあげち使う京都　少し遠慮がちさぐる野津原。生活用語じゃつた方言な　こげな形じあんげこんげ　行ったり来たりしち好きな言葉は　そんままそきぃ腰ぅ据えちムドガラルル。

野津原方言集…『続編№１０』は　平成２０年の秋に発行の予定です。数えて１５年間　素人集団の調査員が　当初は８人で発足以来今日まで　多くの愛読者の皆様に支えられて　２０冊を発行できました。『続編№１０』の内容も　ほぼ同じスタイルですが調査員５人の　想いで話…調査を振り返って　も入れる予定です。

内容概略　五助街道物語…各地の話題も織り交ぜて
方言子供の世界…読み聞かせから
民話、伝承…歴史やロマン、人情を
女性の底力…故郷の逞しい女性の横顔
あげな話、こげな話題
調査員の１６年間こぼればなし



……

野津原方言調査会　大分市大字高原、小原
☎０９７＝５８９＝２８０７
事務局　大分市大字野津原本町
☎０９７＝５８８＝００９２

調査スタッフ…会長　甲斐英行
小野寿祐、那須政子、赤星ヨシミ、佐藤源治

続編　№１０　発行予定…平成２０年秋